

看護科 (1年次)

2023年度 シラバス目次

科目名	項
社会学	2
自然と環境学	4
文化と家族	5
ボランティア論	7
対人関係論	8
心理学	9
医療基礎英語	11
思考とプレゼンテーション	13
情報科学	15
人体の構造と機能総論	17
病理学	19
身体が見える病態治療学Ⅰ 呼吸	21
身体が見える病態治療学Ⅱ 循環	23
身体が見える病態治療学Ⅲ 脳神経	25
身体が見える病態治療学Ⅳ 歯・口腔、感覚器	27
身体が見える病態治療学Ⅴ 運動器	29
身体が見える病態治療学Ⅵ 消化器	31
身体が見える病態治療学Ⅶ 内分泌	33
身体が見える病態治療学Ⅷ 腎・泌尿器	35
生活行動機能論	37
感染症学	39
臨床薬理学	41
関係法規	44

科目名	項
看護学へのとびら	45
看護実践への架け橋	47
看護におけるコミュニケーション	50
看護における安全と環境	51
看護における観察	54
臨床判断と看護技術Ⅰ 呼吸する	56
臨床判断と看護技術Ⅱ 循環する	58
臨床判断と看護技術Ⅲ 感じる・動く・休む	60
臨床判断と看護技術Ⅳ 身なりを整える	62
臨床判断と看護技術Ⅴ 食べる	64
臨床判断と看護技術Ⅵ 排泄する	66
地域で暮らす人の理解	68
地域で療養する人を支えるⅠ 自助、互助	70
社会に生きる成人の健康を考える	71
社会に生きる成人の健康を支える病気の 予防	72
病気と共に生きる成人を支えるⅠ 慢性期、回復期	73
高齢者が輝く生活	75
女性と家族を支える	77
こころを支える	79
基礎看護学実習Ⅰ 看護師の役割と機能を知る	81
地域・在宅看護論実習Ⅰ 人々の思いとその暮らし	84

学科・学年	看護科 1学年
科目名	社会学
担当者	山口 宏
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 基礎分野 社会学 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>社会の機能と近代社会の発展、家族・貧困・差別・異文化理解などを社会的に捉え、社会との関わりを積極的に考えることができるための基礎的知識を養う。また人間は社会環境と相互に作用するものであり、社会における自分の位置づけを社会的に捉え、学生自らも社会の一員であることを自覚するよう学ぶ。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	「社会学ガイダンス」 ・社会学がどういうものか、概略を知る。	「常識を疑う視角を感じ取る」 ・昔の出来事・事件をいくつか見ていくなかで、価値観の違いを具体的に記述できるようにする。	山口 宏
2	前期	「戦後社会・文化史①」 ・終戦から高度成長期の時代変化を押さえる。	「終戦～高度成長期の日常の社会状況を知る」 ・映像も通して終戦後の諸側面を見ることで、生活を具体的に記述できるようにし、現在の高齢層が生きてきた時代の流行を複数挙げられるようにする。	
3	前期	「戦後社会・文化史②」 ・1960年代の社会運動とカウンターカルチャーを知る。	「戦後の社会運動の流れを理解する」 ・学生運動とその暴力的変質をたどることを通して、現在との違いを感じ、具体的に記述できるようにする。	
4	前期	「戦後社会・文化史③」 ・豊かさの達成と、公害問題の複雑さを知る。	「1970年代の感覚変化と社会問題を知る」 ・万博に象徴されるものと、公害問題における地域社会の複雑な対立関係を、説明できるようにする。	
5	前期	「戦後社会・文化史④」 ・1980年代の光と影を押さえる。	「消費社会とバブル経済の論理を考える」 ・1980年代の空気とバブル経済の盛衰を見ることで、高度消費社会の仕組みとマイナス面について説明できるようにする。	
6	前期	「戦後社会・文化史⑤」 ・1990年代から現在への流れを理解する。	「コミュニケーションの変容と現在の空気を理解する」 ・心をめぐるテーマが前景に出てくる社会変化を理解し、現在のコミュニケーションの特徴をとらえ、自分なりの意見が書けるようにする。	
7	前期	「家族をめぐる諸問題」 ・家族の歴史的変化と現在の課題を理解する。	「家族の変化と現在の課題を理解する」 ・グラフデータを読み込んで説明できるようにし、虐待や孤立などさまざまな状況を踏まえて、多様なつながりの可能性を具体的に述べられるようにする。	

8	前期	「貧困と社会的排除」 ・貧困の多面性を理解する。	「貧困の多様な側面を理解する」 ・貧困が健康やコミュニケーションなど様々な面に関わってくることを理解し、それに対する様々な取り組みを知り、その可能性について意見を表現できるようにする。
9	前期	「宗教と社会」 ・世界宗教の特徴と、近年の日本での問題を理解する。	「世界的宗教の特質、および近年の日本での問題を理解する」 ・医療現場でも多様な宗教の人に触れることを想定しながら、諸宗教の特質を表現できるようにし、また新宗教に惹かれる心性を理解し論じられるようにする。
10	前期	「差別を考える視角」 ・日常のイメージから差別を考える。	「日常で作られるイメージから考える」 ・高齢者や障害者をめぐって、いつの間にか作られるイメージが押しつけられやすいことを表現できるようにし、また複数の要因が重なった場合の差別問題も具体的に記述できるようにする。
11	前期	「優生思想の問題」 ・優生思想の歴史と、現在にもつながる問題を考える。	「優生思想の歴史と現在を理解する」 ・戦争と障害者といったテーマも含めながら、過去の優生思想を整理して記述できるようにし、今につながる部分について意見を述べられるようにする。
12	前期	「日本のなかの外国人」 ・外国人労働者と難民申請の現状を理解する。	「外国人の困窮者の現状を理解する」 ・技能実習生や難民申請者の苦境を、医療が受けられない状況なども含めて理解し、論じられるようにする。
13	前期	「民主主義の危うさと可能性」 ・強力な指導者を求める危うさと、民主主義の可能性を考える。	「独裁的指導者を招く心性とあるべき民主主義を理解する」 ・社会心理実験的な映像も使いつつ、強い指導者に従いたくなる心的機制について意見を述べられるようにし、取り組みの諸事例を見ながら考え、医療・福祉職とも重ねて意見を述べられるようにする。
14	前期	グループワーク	・これまで扱ったテーマを絡めながら、10個程度の問題に対して、話し合っそれぞれ答えを発表する。
15	前期	授業総括	・これまでの補足として話と映像を加え、全体的なまとめも含めた意見を述べられるようにする。
成績評価方法	授業態度(授業参加度)10点 授業内での記述90点		
準備学習など	毎回のテーマをシラバスで確認しながら、意見が書きやすいよう関心をもって、テーマに関わる話題・問題など調べておいてください。		
留意事項			

山口
宏

学科・学年	看護科 1学年
科目名	自然と環境学
担当者	桑原 厚和
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	人間と生活:地球の健康を考える

<p>授業概要と目的</p> <p>地球上に住む人間をはじめとする「生命」と「環境」との相互作用については、近年大きな関心が集まっている。本授業では、「生命」とそれを取り巻く「環境」の様々な変化を知ること、環境が私たちの生命現象にどのように相互作用しているかを理解し、自然と共生する視点を身につける。具体的には、人間と自然との関りについて、生物学的視点から、環境要因がどのように生体に影響を及ぼすかを理解する。あわせて、地球環境問題、循環型社会の意義、生物多様性の重要性などについても認識する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	・自然環境と人間との関係について理解する。	・環境と生命との相互作用について説明できる。	桑原 厚和
2	前期	・持続可能な未来の必要性について認識する。	・持続可能な社会を作るための方策について説明できる。	
3	前期	・環境温度が生体に与える影響について理解する。	・環境温度の体温に与える影響について説明できる。	
4	前期	・高度が生体に与える影響について考察する(I)。	・高度の変化が呼吸に与える影響について説明できる。	
5	前期	・高度が生体に与える影響について考察する(II)。	・高度の変化が血液循環や酸素・二酸化炭素運搬に与える影響について説明できる。	
6	前期	・生命の生存に不可欠なエネルギー獲得について認識する。	・外部環境から取り込んだ食物がエネルギーに変換されるまでの消化について説明できる。	
7	前期	・生体からの不要な物質を取り除く仕組みを考察する。	・消化や代謝によって作られた不要物質の体外への排出機構について説明できる。	
8	前期	科目試験(45分)		
成績評価方法	筆記試験80%、レポート20%			
準備学習など				
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	文化と家族
担当者	杉尾 浩規
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 基礎分野 文化人類学 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>ケアの実践学としての看護学では、臨床技術に関する専門知識に加えて、多様な文化的価値観への配慮に基づく総合的な人間理解が必要不可欠となる。人間の普遍性と文化の多様性への学びを通して、自分にとって「当たり前」のことが他者にとっては「当たり前」ではない可能性に気づくことができるような、広い視野の獲得を目指す。その際特に、日本の人間が育ち発達する環境としての家族とその文化的環境である「世間」に注目し、それらの特徴と問題点について理解を深める。そして、その中で実践される看護の普遍性と文化特異性を自覚する。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	・授業の概要と目的を理解できる。	・日本の伝統的な人間関係のルールである「世間」の特徴を説明できる。	杉尾 浩規
2	前期	・「世間」について理解できる。	・日本の「世間」と欧米の「社会」の違いを説明できる。	
3	前期	・「世間」について理解できる。	・「世間」を構成する4つのルールを説明できる。	
4	前期	・「世間」について理解できる。	・「世間」を支える不合理性を説明できる。	
5	前期	・「世間」の中の家族と人間について理解できる。	・「世間」の主要なルールである「贈与・互酬の関係」を説明できる。	
6	前期	・「世間」の中の家族と人間について理解できる。	・「世間」における「謝罪」と「バッシング」のメカニズムを説明できる。	
7	前期	・「世間」の中の家族と人間について理解できる。	・「世間」における家族の人間関係の特徴を説明できる。	
8	前期	・「世間」の中の家族と人間について理解できる。	・「世間」における学校の人間関係の特徴を説明できる。	
9	前期	・「世間」の中の家族と人間について理解できる。	・「世間」との関連で「対人恐怖」を説明できる。	
10	前期	・「世間」の中の家族と人間について理解できる。	・「世間」における「モラル」の特徴を説明できる。	
11	前期	・「世間」、家族、人間を巡る問題を理解できる。	・「世間」と「空気」の類似点と相違点を説明できる。	
12	前期	・「世間」、家族、人間を巡る問題を理解できる。	・「世間」に生きる人間と「社会」に生きる人間の類似点と相違点を説明できる。	

13	前期	・「世間」、家族、人間を巡る問題を理解できる。	・「世間」と「空気」の中で自分を見失わないための方法を説明できる。	杉尾 浩規
14	前期	・「世間」、家族、人間を巡る問題を理解できる。	・「親の期待」を「世間の同調圧力」と感じるときの対処法を説明できる。	
15	前期	授業総括 科目試験	授業の全体的な振り返りと科目試験	
成績評価方法		筆記試験(毎授業時提出のリフレクションペーパーの内容も評価の参考資料とする)		
準備学習など		毎回の授業内容は、それまでの授業内容を前提とし、それぞれ関連しながら次の回へと展開します。それまでの授業レジュメを復習し講義の全体的流れをイメージしながら、毎回の講義に出席して下さい。また、レジュメや授業内で紹介する文献類を積極的に読書し、講義内容の理解を深めて下さい。		
留意事項		本授業では、日本の文化的現実に関連する研究を中心に議論を展開します。受講者は、新聞などの情報を通して現実の日本の動向や出来事に積極的に関心を持つように心がけて下さい。		

学科・学年	看護科 1学年
科目名	ボランティア論
担当者	吉岡 英雄
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義・実習・演習など
教科書・参考書	柴田謙治・原田正樹・名賀亨 編著 ボランティア論 -「広がり」から「深まり」へ みらい書房 猪瀬浩平著 ボランティアってなんだっけ? 岩波ブックレット

授業概要と目的

「ボランティア活動」は自分とは関係のない、あるいは関係あると思っけていても、自分は常に支援をする側と
思っている人もいるかもしれない。「ボランティア」という特別な人がいるわけではなく、ボランティア活動は私
たちが人間が生きる場所すべてに存在している。
本講義では、私たちが共に生きる社会を創出する原動力としてのボランティア活動について、歴史的背景を
学び今日的役割と課題について考察します。本講義を通してボランティア活動の楽しさ、喜び、活動の多様性
を感じ、あなたと社会とのつながりについて考えるきっかけとなることを願います。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	・ボランティアとは何かを理解する。	・自発性や利他主義について正しく理解する。	吉岡 英雄
2	後期	・ボランティアと現代社会を理解する。	・現代社会におけるボランティアについて理解する。	
3	後期	・地域社会のボランティアを理解する。	・地域共生におけるボランティアを理解する。	
4	後期	・災害ボランティアを理解する。	・事例を通じて、災害やDMATを理解する(1)。	
5	後期	・ボランティア活動支援とボランティアコーディネーターを理解する。	・事例を通じて、災害やDMATを理解する(2)。	
6	後期	・ボランティアの「善」と「悪」を理解する。	・ボランティアの「正しさ」について理解する。	
7	後期	・ボランティアの可能性と展望を理解する。	・ボランティアの可能性と展望を理解する。	
8	後期	科目試験(45分)		
成績評価方法	出席率・授業内評価 30点、科目試験 70点			
準備学習など	社会福祉について、新聞やインターネットなどから興味を示してほしい。			
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	対人関係論
担当者	蟹江哲太郎
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	看護コミュニケーション 基礎知識と実際 教育出版

授業概要と目的
社会におけるコミュニケーションの重要性を知り、コミュニケーションスキルを習得する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	・コミュニケーションとは何かについて、コミュニケーションの種類・役割・人と社会の側面から理解する。	・コミュニケーションの種類と役割を説明することができる。 ・現代社会におけるコミュニケーションとコミュニケーション能力の過程について、文章でまとめることができる。	蟹江 哲太郎
2	前期	・対人関係を実践する基礎となる概念について、その主要なものを理解する。	・対人魅力、対人距離とは何か説明することができる。 ・自己開示と自己呈示の違いを具体例を示しながら説明することができる。	
3	前期	・コミュニケーションを阻害する要因を理解する。	・コミュニケーションのプロセス(記号化・送信・受信・解読)がどんなことをすることなのか説明することができる。 ・上記4つの各段階における阻害要因を具体的に説明することができる。	
4	前期	・コミュニケーションの問題の対処や問題を抱える人への援助法について理解する。	・コミュニケーションの問題にどんなものがあるか討議する。 ・コミュニケーション上の問題に対してどんな援助ができるか考える。	
5	前期	・非言語コミュニケーションとアサーションのスキルを習得する。	・非言語コミュニケーションで起こる様々なことを体験する。 ・非言語コミュニケーションが対人関係でなぜ大切なのか考える。	
6	前期	・チームコミュニケーションと傾聴のスキルを習得する。	・集団でコミュニケーションをする時に起こる様々なことを体験する。 ・傾聴のスキルをトレーニングする。	
7	前期	・コーチングに関するスキルを習得する。	・コーチングに関するスキルをトレーニングする。	
8	前期	科目試験(45分)		
成績評価方法	授業毎の小課題(60%)、最終科目試験(40%)			
準備学習など				
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	心理学
担当者	長谷川 洋輔
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>心理学の基本の考え方と心理学の研究手法、人間の心理を理解するために必要な考え方を学ぶ。また、学習や動機づけを学び、今後専門分野で必要となる患者教育へのかかわり方の基本となる考え方を学ぶ。さらに、心理療法の目的と方法の基礎的知識を修得する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	・心理学の成り立ちを学ぶ	・心理学の歴史と、ヒトを解き明かす上で必要な進化論に基づく考え方を身につける	長谷川 洋輔
2	後期	・ヒトの感覚と知覚について学ぶ	・ヒトが外界を知覚する仕組みと脳の自動情報処理について理解する(主に視覚)	
3	後期	・ヒトの記憶について学ぶ	・記憶の理論的分類について知り、記憶メカニズムを説明できる	
4	後期	「短期記憶(演習)」	・短期記憶容量についての実験的研究を体験し、理論的予測と実験結果を対比する	
5	後期	・知能について学ぶ	・思考・言語・知能などヒトの心理の高次機能を知り、知能指数について説明できる	
6	後期	・学習について学ぶ(1)	・学習理論の基礎である反射と条件反射について理解し、行動の強化について学ぶ	
7	後期	・学習について学ぶ(2)	・生物一般に見られる学習とヒト固有の学習を対比する	
8	後期	・感情と動機づけについて学ぶ	・感情の定義と特徴について学び、感情と動機づけの関係について知る	
9	後期	・性格とパーソナリティについて学ぶ	・性格に関する理論と測定法について知り、俗にいう心理テストとの違いを理解する	
10	後期	「性格の測定(演習)」	・性格の測定についての調査的研究を体験し、測定法を知る	
11	後期	・社会と集団について学ぶ	・対人における他者の認知のしかたを学び、集団でのヒトのふるまいを知る	
12	後期	・ヒトの発達について学ぶ	・ヒトの発達段階とそれぞれの時期における特徴と課題を知る	

13	後期	・心理臨床	・代表的な精神障害について分類し、心理臨床の現場で用いられる心理療法を知る	
14	後期	・看護と心理	・医療職との関連から心理臨床の諸問題について知る	
15	後期	授業総括 科目試験	・筆記試験を行い、知識の定着を確認する	
成績評価方法		筆記試験100%		
準備学習など		授業前は 指定の教科書、参考書を事前に読み、内容を整理する。 授業後は講義で学んだ部分について教科書の該当する部分を参考に、ノートや配布資料を整理する。		
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	医療基礎英語
担当者	違道 アポロニア
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	Speaking of Nursing (Main Textbook)

授業概要と目的

グローバル社会での外国の対象の看護実践での正しい英語の活用の基礎を学ぶ。臨床現場に即した外国語の活用の基礎について学ぶ。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	Course introduction, outline, and expectations. Students and teacher introductions/activities	Effective public speaking skills can help with career advancement, as they indicate creativity, critical thinking skills, leadership abilities, poise, and professionalism, qualities which are very valuable for the job market.	違道 アポロニア
2	後期	Asking Basic Questions	Speaking/ Grammar (Verbs be and do)/Yes and No Questions/ Practice	
3	後期	A Patient's First Visit	Communicating with patients in the reception/Questions and Statements with "be"/ Countries and Nationalities/Filling out Forms	
4	後期	Where's Internal Medicine ?	Imperative Verb Forms/ Deaprtments in a Hospital/ Giving Directions using the prepositional verb phrases	
5	後期	Admission to the Hospital	Giving a tour to new patients/ Prepositions of Time/Verbs of Offers of Help	
6	後期	Giving Information	Speaking with Patients/Grammar: Clauses/Grammar:Countable & Uncountable Nouns/Grammar: Expressions of Quantity/Medical Supplies	
7	後期	Symptoms	Identifying symptoms, problems of patients/Grammar: Agreement of nouns and adjectives for medical conditions	
8	後期	Injuries and Emergencies	Identifying Body Parts/Grammar: Past Tense/Type of Injuries/Level of Seriousness	
9	後期	How Are You Feeling ?	Communicating and Checking with patients after a treatment/Grammar: Present Continuous Tense and Present Tense/ Identifying Internal Body Parts and its functions	
10	後期	A Patients Medical History	Asking and communicating with patients regarding medical history/Grammar: Present Perfect Tense, Present Tense and Past Tense/ Diseases/	

11	後期	Medicine	Giving instructions regarding medicine/Grammar: Adverbs of Frequency, Modal Verbs/ Types of Medicine.	違道 アポロニア
12	後期	I'm Going to Give you an IV	Conversation and instructions when giving an IV to a patient/Grammar: Future Tense	
13	後期	Congratulations ! You're Having a Baby Girl	Communicating with patients in the maternity ward/ Grammar: Present Continuous tense used for the future; Pronouns; Learning Verbs	
14	後期	REVIEWS/ Practicing for the Speaking Exams/Pointers for the Final Written Exams	Checking students' understanding regarding the material / Oral Practice for the speaking exams /Vocabulary Pointers for Final exams.	
15	後期	Speaking Examination (Oral pairwork) Written Examination		
成績評価方法		*Attendance, Class Participation, Class Activities 20% *Final Examination (Speaking Skills 30% and Written/Comprehensive Test 50%)		
準備学習など		Practicing speaking Speaking is a skill which is needed to be polished. The more you practice, the better you will become, until finally you can do it without needing to think much about it. The goal is to get students to react in English, rather than in Japanese. Vocabularies are introduced, learned and explained in appropriate contexts.		
留意事項		Students are expected to: 1. Bring the textbook and English-Japanese and Japanese-English dictionaries every class. 2. Review the vocabulary and phrases learned in class, both orally and in writing. 3. Doing homework for the preceding unit of the material is advisable for a smooth phasing of the class 4. Spend 60-90 minutes a week for reviewing on what has been learned. • Each night, spend some time reviewing vocabulary, phrases, and dialogues gone over in class. Keeping a journal of vocabularies would be very effective. • Complete assigned homework before class. • Bring course materials to each class; textbook, reference materials, as well as a dictionary.		

学科・学年	看護科 1学年
科目名	思考とプレゼンテーション
担当者	山田 美香 ・ 日比野 創
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	世界一やさしい問題解決の授業 ～自分で考え、行動する力が身につく絶対役立つ教育心理 ダイヤモンド社 「系統看護学講座別巻 看護情報学」中山和宏他著 医学書院(Eテキスト)

授業概要と目的

個々が情報を正しく、相手に伝わるよう表現する方法を学ぶ。特に医療の現場では、何が正しいか、何が考えられるかの推論と判断することが求められる。自分の思い、考えを言葉と言葉以外の手段を用い、相手に伝え、注意を喚起し、興味を示し、理解させ、お互いが共感・共有することである。まず己を知ることから始まり、相手の立場に立ったものの考え方、論理的文章の書き方、情報収集の方法・活用、プレゼンテーション表現技術・プレゼンテーション発表、グループワーキング演習を通して思考とプレゼンテーションの基本技術を学ぶと同時に課題を明確にする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、自分はどういう思考のメカニズムを持っているのかを考えることができる。例えば、事実に対してどのように理解し、それを言葉としているのかを考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、互いに話してみることで、自分の思考が他の人と違うことを理解する。 同じことを話しても、それぞれ考えが違うことが分かる。 学生が、どうしてそれぞれ意見が違うのかを自分なりに述べる。 学生が、「事実」と「意見」は異なることを討論し、他の人の意見を理解する。 	山田 美香
2	前期	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、物事を俯瞰し考えることができる。また、どのように事実を推論したらよいかを認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、一つのことで物事を判断するのではなく、広く物事を理解するよう努力できる。 学生が、どのように目の前の状況を見たらよいかを理解する。 学生が、ある状況について互いに意見を述べ合い、人それぞれ見方が違うことが分かる。 学生が、事実の推論について討論し、他の人がどのように事実を理解しているのかを考える。 	
3	前期	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、事実からどのように物事を理解したらよいかを考察する。いくつもの事実の関係性から、自分が何を中心に考えているのかが分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学生が、目の前の状況をどのように理解したらよいかを考える。 学生が、それら事実の関係性から、何を思うのかを互いに話す。 学生が互いに話すことで、目の前の状況についていろいろな理解があることが分かる。 	

4	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、考えるだけでなく、自分で表現をするために必要な情報を得る。日々、言葉で表現することが多いことから、より多くの言葉の表現を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、普段どんな表現をしているのかを互いに話す。 ・学生が、どんなときにどんな表現をしているのかを考える。 ・学生が、言葉で表現をするときに、どんな表現が多いのかを考える。 	山田 美香
5	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、普段どんな自己表現をしているのかを自分なりに思い出す。表現方法の種類を理解し、誰にでも伝わる表現の練習をする。(伝達ゲーム) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、普段どんな自己表現をしているのか、表現の種類について互いに話す。 ・学生が、いろいろな表現方法で、自分が言いたいことを相手に伝える努力をする。 ・学生が、誰にでも伝わる表現の在り方は何かを話す。 ・学生が、伝達ゲームで、どうしたら相手に伝わるのかを考える。 	
6	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、どのように自分の考えを論理的思考とするのか、その在り方を学ぶ。自分の考えや他の人の考えについて、批判的思考をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、自分の考えを論理的に考え直す。 ・学生が、その考えを別の視点で見直す批判的思考を理解する。 	
7	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、自分の考えを整理して伝える。自分の考えを事実に基づいて説明・表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が、事実に基づいて自分の考えを述べる。 ・学生が相手に分かるように自分の考えを説明できる。 ・学生が、いろいろな人の考えを聞き、自分の表現の在り方を考え直す。 	
8	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの基本(特に「わかりやすさ」を高めること)について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの「わかりやすさ」を高めるためのポイントもしくは工夫を2つ以上挙げることができる。 	
9	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションの構想・設計について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「イントロ」から「まとめ」までプレゼンテーションの素案を1つ作成することができる。 	
10	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントの基礎的な使い方を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なスライドを5枚以上作成することができる。 	
11	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントの追加的な機能を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントの追加的な機能を1つ使うことができる。 	
12	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・「見せ方」「話し方」について「わかりやすさ」を高める方法を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「見せ方」「話し方」について「わかりやすさ」を高めるためのポイントもしくは工夫を2つ以上挙げることができる。 	日比野 創
13	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・「見せ方」「話し方」について「わかりやすさ」を高めるための工夫を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「見せ方」「話し方」について「わかりやすさ」を高めるための自分自身の課題もしくは工夫を2つ以上挙げることができる。 	
14	前期	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や他の学生のプレゼンテーションから学び、より良いプレゼンテーションのための工夫を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションに関する様々な側面について、自分自身の課題もしくは工夫を2つ以上挙げることができる。 	
15	前期	授業総括 科目試験 <ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習全体を振り返り、自分の得た学びについて、理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身のプレゼンテーション能力向上に向けて「今後取り組むべき課題」もしくは「能力向上に役立つ工夫や方法」を2つ以上挙げることができる。 	
成績評価方法		(山田)筆記試験50点 (日比野)レポート25点 パフォーマンス25点		
準備学習など				
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	情報科学
担当者	新井 隆裕／高取幸江
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院 30時間でマスター Office2019 (Windows10対応) 実教出版株式会社

授業概要と目的

情報科学の初学者にも理解できるように、具体例を用いながら情報科学の基礎知識について概説する。現在、情報通信、情報メディア技術の発展に伴いコンピュータは身の回りのさまざまなところに組み込まれ、利用されている。このコンピュータの原理や歴史、インターネットの仕組み、コンピュータセキュリティといった情報に関する科学・技術的事項の習得を目指す。また現在医療はIT化が進み、保健・医療・福祉のさまざまな場所で利用されている。そのため、コンピュータの基本的な操作とリテラシーについて基本の知識を学ぶ。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	「情報と情報科学の考え方(1) 情報と情報科学の考え方①」	・情報について説明できる。	新井 隆裕
2	前期	「情報と情報科学の考え方(2) 情報と情報科学の考え方②」	・情報科学について説明できる。	
3	前期	「情報収集とソーシャルメディア(1) 情報の使い方①」	・情報の取扱いについて説明できる。	
4	前期	「情報収集とソーシャルメディア(2) 情報の使い方②」	・ソーシャルメディアの仕組みについて説明できる。	
5	前期	「通信の仕組み(1)通信経路」	・通信経路について説明できる。	
6	前期	「通信の仕組み(2)データの送信と管理」	・データの送信と管理について説明できる。	
7	前期	「情報リテラシー 情報リテラシーの考え方」	・情報リテラシーの考え方を説明できる。	
8	前期	「パソコンの使い方とソフトウェアの利用(1)パソコンの基本的操作①」	・パソコンの基本的操作の説明ができる。	
9	前期	「パソコンの使い方とソフトウェアの利用(2)パソコンの基本的操作②」	・キーボードでのタイピングができる。	
10	前期	「パソコンの使い方とソフトウェアの利用(3)ソフトウェアの利用①」	・Wordを使用しレポートを作成できる。	
11	前期	「パソコンの使い方とソフトウェアの利用(4)ソフトウェアの利用②」	・Excelを使用し表計算とグラフ作成できる。	
12	前期	「パソコンの使い方とソフトウェアの利用(5)ソフトウェアの利用③」	・Powerpointを使用しスライドを作成できる。	
13	前期	病院内のICT	・電子カルテの実際を説明できる。	

14	前期	未来のICT	・これからの医療現場でのAIについて説明できる。	
15	前期	授業総括 科目試験		新井 隆裕
成績評価方法		筆記試験と演習課題とで評価する(1:1)		
準備学習など		予習、復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。		
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	人体の構造と機能総論
担当者	野村 隆士
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院

授業概要と目的

看護は実践の科学といわれ、人体構造機能学の知識は土台として活用できる。人体各部をまとめて機能別に学ぶ。また、人体の細胞や免疫機能についても理解を深める。また、医療従事者の共通用語である解剖学的名称を学習する。
担当教員は医師であり、医学の知識を活かして指導を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)
1	前期	・人体を構成する構造と機能を学ぶにあたり共通する概念を修得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・体の各部位の名称を正しく答えることができる。 ・体の向き、方向の名称を正しく答えることができる。 ・関節の動く方向の名称を正しく答えることができる。
2	前期	・人体を構成する階層構造を理解し、構成最小単位である細胞の構造・機能を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・人体を構成する階層構造を正しく説明できる。 ・細胞内の構造と各細胞内小器官の機能を正しく説明できる。 ・染色体、遺伝子、ゲノム、DNAを正しく説明できる。
3	前期	・細胞の次の階層構造である組織を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・上皮組織を正しく説明できる。 ・結合組織を正しく説明できる。 ・筋組織を正しく説明できる。 ・神経組織を正しく説明できる。
4	前期	・組織の次の階層構造である器官、器官系を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・管腔器官と実質器官の違いを説明できる。 ・各器官系の機能とその連携を説明できる。
5	前期	・人体の免疫機能全体像を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自然免疫を説明できる。 ・各リンパ器官とその機能を説明できる。
6	前期	・免疫細胞を輸送するリンパ管を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・血管とリンパ管の違いを説明できる。 ・リンパ管の走向とリンパの流れを説明できる。

7	前期	・獲得免疫とアレルギーを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・獲得免疫を説明できる。 ・予防接種の作用機序を説明できる。 ・各アレルギーの発症機序を説明できる。
8	前期	科目試験(45分)	・これまで学習したことの理解度を確認する。
成績評価方法		科目試験(100%)にて評価する。	
準備学習など		予習として、GIO、SBOsに該当する教科書部分を読んでおく。	
留意事項		講義内で提示したミニマム問題集を復習しておくこと。	

学科・学年	看護科 1学年
科目名	病理学
担当者	益田 健史
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	プリント資料を配布。

<p>授業概要と目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病理学の意義およびその総論的知識の習得。 ・病理学を通じて疾病の本質を理解する。 <p>担当教員は医師であり、医学の知識を活かして指導を行う。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	・病理学の理を知る。	・病理学の役割と歴史を理解する。 ・疾患の原因を説明できる。	益田 健史
2	前期	・疾患を理解する。	・先天異常について説明できる。 ・疾患の急性と慢性を説明できる。 ・予防医学について説明できる。	
3	前期	・細胞障害を理解する①。	・進行性病変を理解する。 ・壊死・アポトーシス・萎縮・変性を説明できる。	
4	前期	・細胞障害を理解する②。	・進行性病変を理解する。 ・再生・肥大・過形成・化生を説明できる。	
5	前期	・炎症を理解する①。	・炎症とは何かを理解する。 ・炎症の主要徴候を列挙できる。	
6	前期	・炎症を理解する②。	・炎症のメカニズムを説明できる。 ・炎症の分類を列挙できる。	
7	前期	・感染を理解する。	・感染症を説明できる。 ・予防接種・免疫を説明できる。	
8	前期	・循環障害を理解する①。	・循環の基礎知識を理解する。	
9	前期	・循環障害を理解する②。	・局所循環障害を理解する。 ・虚血・うっ血・充血・血栓・塞栓・梗塞を説明できる。	
10	前期	・循環障害を理解する③。	・全身の循環障害を理解する。 ・浮腫・高血圧症を説明できる。	
11	前期	・腫瘍について理解する①。	・腫瘍について理解する。 ・腫瘍の定義を説明できる。	
12	前期	・腫瘍について理解する②。	・腫瘍の原因を説明できる。 ・小児の腫瘍について説明できる。	
13	前期	・代謝障害について理解する。	・代謝について説明できる。 ・代謝障害を説明できる。	

14	前期	・死について理解する。 ・まとめ。	・死の徴候を説明できる。	益田 健史
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験		
成績評価方法		筆記試験(国家試験形式問題・語句説明問題・カッコ問題・○×問題)で評価する。		
準備学習など		配布資料の復習。医学への理解を深める事。		
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	身体が見える病態治療学 I 呼吸
担当者	野村隆士 / 大畑賀央
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野 II 成人看護学② 呼吸器 医学書院

授業概要と目的

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を視て身体の中で起きていることを知り、これから起凝ることを予測して判断する能力が求められる。
 正常な身体の仕組みと働きが損なわれることで病気になることから、正常を知り、疾病をもった対象となる人を視て体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力の基礎を学習する。
 呼吸器系の特徴的な疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする。
 担当教員は、医師であり医学の知識と経験を活かして指導を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	・呼吸器系担当臓器の位置関係を確認し、上気道の構造、機能を理解する。	・呼吸器系臓器の位置関係を説明できる。 ・上気道の臓器の位置関係、機能を説明できる。	野村隆士
2	前期	・下気道、肺の構造、呼吸筋、縦隔の構成を理解する。	・下気道の臓器の位置関係、機能を説明できる。 ・肺の構造を説明できる。 ・呼吸筋を説明できる。 ・縦隔の構成を説明できる。	
3	前期	・呼吸器系の機能を理解する。	・内呼吸、外呼吸を説明できる。 ・各種呼吸量を説明できる。 ・酸素解離曲線を説明できる。	
4	前期	・呼吸の制御を理解する。	・呼吸中枢を説明できる。 ・呼吸の自律的制御機構を説明できる。	
5	前期	呼吸器疾患の主な症状①	呼吸器疾患にみられる主要な症状の病態生理、鑑別診断が説明できる。	大畑賀央
6	前期	呼吸器疾患の主な症状②	呼吸器疾患にみられる主要な症状の病態生理、鑑別診断が説明できる。	
7	前期	呼吸器疾患の主な検査	呼吸器疾患で行われる主な検査を理解し、その内容を説明できる。	
8	前期	呼吸器疾患の主な治療、処置、手術	呼吸器疾患で行われる主要な治療、処置、手術について説明できる。	
9	前期	各論 感染症	疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断および治療方法、予後などが説明できる。	
10	前期	各論 間質性肺疾患	疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断および治療方法、予後などが説明できる。	

11	前期	各論 気道疾患	疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断および治療方法、予後などが説明できる。	大畑 賀央
12	前期	各論 肺循環障害、呼吸不全	疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断および治療方法、予後などが説明できる。	
13	前期	各論 肺腫瘍	疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断および治療方法、予後などが説明できる。	
14	前期	各論 その他の肺疾患、禁煙について	疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断および治療方法、予後などが説明できる。禁煙の必要性につき説明できる。	
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験	呼吸器疾患を理解し説明できる。	
成績評価方法		(野村) 筆記試験30% (大畑) 筆記試験70%		
準備学習など		(野村) 予習として, GIO, SBOsに該当する教科書部分をを読んでおく。		
留意事項		(野村) 講義内で提示したミニマム問題集を復習しておくこと。		

学科・学年	看護科 1学年
科目名	身体が見える病態治療学Ⅱ 循環
担当者	加藤 忠
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学③ 循環器 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を視て身体の中で起きていることを知り、これから起凝ることを予測して判断する能力が求められる。</p> <p>正常な身体の仕組みと働きが損なわれることで病気になることから、正常を知り、疾病をもった対象となる人を視て体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力の基礎を学習する。</p> <p>循環器系の特徴的な疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする。</p> <p>担当教員は医師であり、医学の知識を活かして指導を行う。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	「循環器系の構造と機能(1)」	・循環器の構造と機能について理解し、心臓や血管の構造・機能が説明できる。	加藤 忠
2	後期	「循環器系の構造と機能(2)」	・循環器の構造と機能について理解し、心臓や血管の構造・機能が説明できる。	
3	後期	「循環器系の構造と機能(3)」	・循環器の構造と機能について理解し、心臓や血管の構造・機能が説明できる。	
4	後期	「心電図」	・心電図の基礎を理解し、心電図について説明できる。	
5	後期	「不整脈」	・不整脈のメカニズムを理解し、その治療について説明できる。	
6	後期	「循環器疾患の主な症状(1)」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	
7	後期	「循環器疾患の主な症状(2)」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	
8	後期	「高血圧」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	
9	後期	「動脈硬化」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	
10	後期	「急性冠症候群」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	
11	後期	「心不全」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	
12	後期	「弁膜症・心筋症」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	
13	後期	「血管疾患」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	

14	後期	「先天性心疾患」	・疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断、治療方法が説明できる。	加藤 忠
15	後期	授業総括 科目試験	・循環器の構造・機能に基づき呼吸器疾患を理解し、説明できる。	
成績評価方法		筆記試験100%		
準備学習など				
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	身体が見える病態治療学Ⅲ 脳神経
担当者	桑原 裕子 ・ 椎名 諭
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳神経 医学書院

授業概要と目的

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を見て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。
 正常な身体の仕組みと働きが損なわれることで病気になることから、正常を知り、疾病をもった対象となる人を見て体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力の基礎を学習する。
 脳神経系の特徴的な疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする。
 担当教員は医師等であり、医学の知識と経験を活かして指導を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	・神経系の構成とニューロンの興奮とその伝導について理解する。	・神経系の構成とニューロンの興奮とその伝導について説明できる。	桑原 裕子
2	通年	・脊髄、小脳および脳幹の構造と働きを理解する。	・脊髄、小脳および脳幹の構造と主な中枢や反射について説明できる。	
3	通年	・間脳、大脳基底核、大脳皮質の構造と働き、および高次機能を理解する。	・間脳、大脳基底核、大脳皮質の構造と中枢の局在、および高次機能について説明できる。	
4	通年	・脊髄神経および神経叢の構成や上肢や下肢の支配域を理解する。	・脊髄神経および神経叢の構成や上肢や下肢の支配域を説明できる。	
5	通年	・脳神経の種類とその働きや支配域を理解する。	・脳神経の種類とその働きや支配域を説明できる。	
6	通年	・脳神経の障害について理解する。	・意識障害、言語障害、高次脳機能障害、運動・感覚機能障害、頭蓋内圧亢進症について分類や症状を述べられる。	椎名 諭
7	通年	・脳血管障害について理解する。	・脳血管障害の疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	
8	通年	・変性疾患、脱髄性疾患について理解する。	・パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	
9	通年	・認知症について理解する。	・アルツハイマー病、血管性認知症、レビー小体型認知症の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	
10	通年	・中枢神経系の感染症について理解する。	・中枢神経系の感染症の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	

11	通年	・脳腫瘍について理解する。	・脳腫瘍の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	椎名 諭
12	通年	・頭部と脊椎・脊髄の外傷について理解する。	・頭部と脊椎・脊髄の外傷の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	
13	通年	・機能的疾患(てんかん)について理解する。	・機能的疾患の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	
14	通年	・その他の神経障害について理解する。	・二次性意識障害・神経障害を起こす疾患、ギランバレー症候群、糖尿病性神経障害、圧迫性神経障害の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	
15	通年	授業総括 科目試験		
成績評価方法		(桑原)筆記試験35% (椎名)筆記試験65%		
準備学習など				
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	身体が見える病態治療学Ⅳ 歯・口腔、感覚器
担当者	野村 尚輝 ・ 小足 有紀 ・ 長村 美佳 ・ 加藤 香澄 ・ 柴田 康子
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑮ 歯科・口腔 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑬ 眼 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑫ 皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑭ 耳鼻咽喉

授業概要と目的

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を視て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。正常な身体の仕組みと働きが損なわれることで病気になることから、正常を知り、疾病をもった対象となる人を視て体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力の基礎を学習する。

歯科口腔、感覚器系の特徴的な疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする。

担当教員は医師であり、医学の知識と経験を活かして指導を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	・歯科・口腔系の構造と機能を理解する。	・歯科・口腔系の構造と機能を理解する。	野村 尚輝
2	後期	・各疾病の成り立ちと病態を理解する。	・各疾病の成り立ちと病態を理解する。	
3	後期	・各疾病の症状、検査、治療を理解する。	・各疾病の症状、検査、治療を理解する。	
4	後期	「眼の構造と機能」	・眼の構造と機能を説明することができる。	小足 有紀
5	後期	「視覚障害(白内障、緑内障、網膜剥離網膜症)」	・成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	
6	後期	「視覚障害(加齢黄斑変性、糖尿病性網膜症など)、色覚異常、結膜の疾患」	・成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過、診断と治療方法が述べられる。	
7	後期	「眼科における検査と治療」	・眼科における代表的な検査と治療を説明できる。	
8	後期	「皮膚の構造と機能」「発疹の性状」 ・皮膚の病態を理解するために正常皮膚の構造と機能を理解する。 ・疾患を理解するために必要となる発疹の性状を修得する。	・皮膚の構造を説明する。皮膚に存在する細胞とその機能を説明する。 ・代表的な発疹を表現する用語を覚える。 ・特徴的な皮膚病変の症状を説明する。	長村 美佳

9	後期	「各疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過1 表在性皮膚疾患(湿疹、アトピー性皮膚炎など)、感染症(帯状疱疹、疥癬、蜂窩織炎など)」 ・皮膚科領域でよくある疾患を理解し、それに対する看護を身につける。	・アトピー性皮膚炎の合併症を説明する。外用療法とそれに用いる外用剤(軟膏、クリーム、副腎皮質ステロイドなど)の正しい外用方法を説明する。そして実践する。 ・一般的な急性期の皮膚感染症について学び、全身状態に合わせたケアの方法を述べる。	加藤 香澄
10	後期	「各疾病の成り立ちと病態生理、特徴的な症状と経過2 物理化学的刺激(熱傷など)と創傷全般(皮膚潰瘍、褥瘡)」 ・褥瘡や皮膚潰瘍などの傷をみてその深さや状態を評価する。	・褥瘡、皮膚潰瘍、熱傷など、傷の適切な洗浄の仕方を説明する。最も優先される処置を選択する。	
11	後期	・耳について解剖・機能・疾患を理解する。	・代表的な耳の疾患について何も見ずに説明できる。	柴田 康子
12	後期	・鼻について解剖・機能・疾患を理解する。	・代表的な鼻の疾患について何も見ずに説明できる。	
13	後期	・咽頭・喉頭について解剖・機能・疾患を理解する。	・代表的な咽頭・喉頭の疾患について何も見ずに説明できる。	
14	後期	・耳鼻咽喉科で行われる検査を理解する。	・代表的な検査結果が理解できる。	
15	後期	授業総括 科目試験		
成績評価方法		(野村)筆記試験20% (柴田)筆記試験30% (小足)筆記試験30% (加藤・長村)筆記試験20%		
準備学習など		(長村、加藤)該当する部位の教科書をあらかじめ目を通すとよいでしょう。皮膚は人体最大の臓器と言われています。すぐに目に見える部位でもありますし、毎日観察する必要がある部位の一つです。何気なく皮膚をみるのではなく、興味を持って、意識してみるとみえてくるものがたくさんあります。		
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	身体が見える病態治療学Ⅴ 運動器
担当者	桑原 裕子 ・ 矢崎 進
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑩ 運動器 医学書院

授業概要と目的

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を見て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。
 正常な身体の仕組みと働きが損なわれることで病気になることから、正常を知り、疾病をもった対象となる人を見て体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力の基礎を学習する。
 運動器系の特徴的な疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする。
 担当教員は医師等であり、医学の知識と経験を活かして指導を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	・全身骨格と骨の微細構造および骨の発生と成長を理解する。	・全身骨格の構成と骨の微細構造および骨の発生と成長を説明できる。	桑原 裕子
2	後期	・骨の連結と種類および骨格筋の構造と働きを理解する。	・骨の連結および骨格筋の構造と働きを説明できる。	
3	後期	・体幹と頭頸部の骨と筋の構造と働きを理解する。	・体幹と頭頸部の骨と筋の構造と働きを説明できる。	
4	後期	・上下肢の骨と筋の構造と働きを理解する。	・上下肢の骨と筋の構造と働きを説明できる。	
5	後期	・骨格筋収縮機構と収縮の種類と特性を理解する。	・骨格筋の収縮機構と収縮の種類と特性を説明できる。	
6	後期	「運動器疾患の症状とその病態生理」 ・運動器疾患の主な症状とその病態生理を理解する。 「運動器疾患の診断・検査」 ・運動器疾患の基本的な診察・検査について理解する。	「疼痛、形態異常、関節運動の異常、神経の異常、異常歩行」 ・疼痛、奇形と変形、関節拘縮、神経麻痺、跛行の種類と概念について説明できる。 「診察・診断の流れ、画像検査、電気生理的検査、関節鏡検査、保存療法、手術療法」 ・診察方法、画像検査(X線検査、MRI、超音波検査、造影検査)、電気生理的検査、関節鏡の方法、解釈について説明できる。	矢崎 進
7	後期	「運動器疾患の治療・処置」 ・運動器の代表的な保存療法、手術療法について理解する。 「骨折総論」 ・骨折の基本を理解する。	「保存療法、手術療法」 ・ギプス、牽引療法、注射療法、手術療法の種類と方法を説明できる。 「骨折とは」 ・骨折の分類、症状、診断、治癒過程、合併症、後遺症を説明できる。	
8	後期	「骨折各論」 ・上肢・下肢・体幹の部位別の骨折について理解する。	「上肢・下肢・体幹の骨折」 ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。	

9	後期	「脱臼、軟部組織、神経の損傷」 ・脱臼、軟部組織、神経の損傷について理解する。	「脱臼、捻挫・打撲、脊髄損傷、末梢神経損傷」 ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。	矢崎 進	
10	後期	「筋・腱・靭帯などの損傷、先天性疾患」 ・筋・腱・靭帯などの損傷、先天性疾患について理解する。	「手の腱損傷、半月損傷、膝靭帯損傷、発育性股関節形成不全、先天性内反足、骨系統疾患、先天異常症候群」 ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。		
11	後期	「骨・関節の炎症性疾患・変性疾患」 ・骨・関節の炎症性疾患・変性疾患について理解する。	「骨・関節の感染症、関節リウマチ、リウマチ類縁疾患、変形性関節症」 ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。		
12	後期	「骨・軟部腫瘍、腱の疾患、神経筋疾患」 ・骨・軟部腫瘍、腱の疾患、神経筋疾患について理解する。	「良性・悪性骨腫瘍、良性・悪性軟部腫瘍、腱の炎症性疾患、脳性麻痺、絞扼性神経障害」 ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。		
13	後期	「代謝性骨疾患、上肢・上肢帯の疾患、脊椎・脊髄の疾患」 ・代謝性骨疾患、上肢・上肢帯の疾患、脊椎・脊髄の疾患について理解する。	「骨粗鬆症、胸郭出口症候群、神経根症・脊髄症、脊柱靭帯骨化症、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア」 ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。		
14	後期	「脊髄・脊髄の疾患、下肢・下肢帯の疾患」 ・脊椎・脊髄疾患、下肢・下肢帯の疾患について理解する。	「二分脊椎、脊柱側弯症、脊髄腫瘍、骨端症、ペルテス病、大腿骨頭壊死、大腿骨頭すべり症、扁平足」 ・概念と病態生理、症状・経過、診断、治療法、予後を説明できる。		
15	後期	授業総括 科目試験			
成績評価方法		(桑原)筆記試験35% (矢崎)筆記試験65%			
準備学習など					
留意事項					

学科・学年	看護科 1学年
科目名	身体が見える病態治療学Ⅵ 消化器
担当者	高野 博充 ・ 齋藤 研
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑤ 消化器 医学書院

授業概要と目的

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を視て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。正常な身体の仕組みと働きが損なわれることで病気になることから、正常を知り、疾病をもった対象となる人を視て体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力の基礎を学習する。

消化器系の特徴的な疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする。

担当教員は医師等であり、医学の知識と経験を活かして指導を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	「消化器系の構造と機能」 ・食物から栄養を吸収する仕組みを説明できる。	「食欲の調節・口～食道の構造と機能」 ・食欲に関わるホルモンを挙げられる。食物の咀嚼から嚥下の仕組みを説明できる。	高野 博充
2	前期		「胃と小腸の構造と機能」 ・胃と小腸の壁の構造と運動の仕組みを説明できる。	
3	前期		「膵臓・肝臓・胆嚢の機能」 ・消化に関わる膵臓と肝臓の構造や分泌物を説明できる。	
4	前期		「栄養素の消化と吸収」 ・三大栄養素の消化に関わる酵素名を挙げられ、吸収の仕組みを説明できる。	
5	前期		「大腸の構造と機能」 ・排便反射を説明できる。	
6	前期	「食道疾患」	・GERD、アカラシア、マロリーワイス症候群、食道癌等の原因・症状・所見・治療等を知る。	齋藤 研
7	前期	「胃疾患」	・胃炎、機能的胃腸症、胃潰瘍等の原因・症状・所見・治療等を知る。	
8	前期		・胃潰瘍とヘリコバクターピロリの関係性、胃癌や胃ポリープ等の原因・所見・治療等を知る。	
9	前期	「腸疾患」	・潰瘍性大腸炎、クローン病についての比較(原因・症状・所見・治療を含めて)が出来る。	
10	前期	「腸疾患」	・大腸の炎症(感染等、虚血性腸炎、偽膜性腸炎)、大腸ポリープ、大腸憩室、大腸癌等について原因・症状・所見・治療を知る。	

11	前期	「肝臓疾患」	・急性肝炎の原因・症状・所見・治療を知る。	齋藤 研
12	前期		・慢性肝炎、肝硬変、肝臓癌の症状・所見・治療を知る。	
13	前期	「胆のう疾患」	・急性胆のう炎の原因・症状・所見・治療を知る。 ・胆石症(総胆管結石、胆のう結石)の原因・症状・所見・治療を知る。	
14	前期	「膵臓疾患」	・急性膵炎の原因・症状・所見・治療を知る。	
15	前期	授業総括 科目試験		
成績評価方法		(高野)筆記試験35% (齋藤)筆記試験65%		
準備学習など		教科書該当項目を通読しておくこと。		
留意事項		欠席した場合はレポート課題の提出が必要。		

学科・学年	看護科 1学年
科目名	身体が見える病態治療学Ⅶ 内分泌
担当者	桑原 裕子 ・ 斎藤 研
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院

授業概要と目的

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を見て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。正常な身体の仕組みと働きが損なわれることで病気になることから、正常を知り、疾病をもった対象となる人を見て体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力の基礎を学習する。

内分泌系の特徴的な疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする。

担当教員は医師等であり、医学の知識と経験を活かして指導を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	・視床下部一下垂体系の構造的関連と働きを理解する。	・視床下部と下垂体の構造的関連と分泌されるホルモンの働きを説明できる。	桑原 裕子
2	通年	・甲状腺、上皮小体、膵臓の構造と働きを理解する。	・甲状腺、上皮小体、膵臓の構造と分泌されるホルモンの働きを説明できる。	
3	通年	・副腎、性腺の構造と働きを理解する。	・副腎、性腺の構造と分泌されるホルモンの働きを説明できる。	
4	通年	・ホルモン分泌の調節機序を理解する。	・ホルモン分泌の調節機序および糖代謝およびカルシウム代謝調節を説明できる。	
5	通年	「下垂体疾患」	・高プロラクチン血症、成長ホルモン過剰、尿崩症等について原因・症状・所見・治療を知る。	斎藤 研
6	通年	「副腎疾患」	・クッシング症候群(クッシング病を含む)について原因・症状・所見・治療を知る。	
7	通年		・原発性アルドステロン症について原因・症状・所見・治療を知る。(レニン、アンギオテンシン、アルドステロン系についての確認)	
8	通年		・褐色細胞腫、機能低下症(アジソン病等)について原因・症状・所見・治療を知る。	
9	通年	「甲状腺疾患」	・甲状腺機能亢進症(バセドウ病、亜急性甲状腺炎、無痛性甲状腺炎等)甲状腺機能低下症(橋本病、クレチン病、シーハン症候群等)について原因・症状・所見・治療を知る。	
10	通年	「副甲状腺疾患」	・副甲状腺機能亢進症について原因・症状・所見・治療を知る。	

11	通年	「糖代謝」	・糖尿病の分類・症状・所見・治療について知る。	齋藤 研
12	通年		・糖尿病の合併症について症状・所見・治療等を知る。	
13	通年	「脂質代謝」	・高コレステロール血症、高TG血症の原因・症状・所見・治療を知る。	
14	通年	「尿酸代謝」	・高尿酸血症の原因・症状・所見・治療を知る。	
15	通年	授業総括 科目試験		
成績評価方法		(桑原)筆記試験30% (齋藤)筆記試験70%		
準備学習など				
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	身体が見える病態治療学Ⅷ 腎・泌尿器
担当者	高野 博充 ・ 福田 道雄
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑧ 腎・泌尿器 医学書院

授業概要と目的

看護は人を対象にする専門職であり、対象となる人を見て身体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力が求められる。
 正常な身体の仕組みと働きが損なわれることで病気になることから、正常を知り、疾病をもった対象となる人を見て体の中で起きていることを知り、これから起こることを予測して判断する能力の基礎を学習する。
 腎・泌尿器男性生殖時系の特徴的な疾患について病気のプロセスと病態生理、症状と経過、診断基準、検査データ、治療法、予後について学習し、専門科目で学ぶ看護学の基盤とする。
 担当教員は医師等であり、医学の知識と経験を活かして指導を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前後期	「泌尿器系の構造と機能」 ・泌尿器の主な構造と体液調節機能について説明できる。	「腎臓の構造と機能」 ・糸球体と尿細管の構造を説明できる。	高野 博充
2	前後期		「尿の生成」 ・尿の生成の仕組みと成分調節機構について説明できる。	
3	前後期		「排尿路」 ・排尿にかかわる神経と筋のはたらきを説明できる。	
4	前後期		「体液の調節」 ・体液量、電解質濃度、酸塩基平衡の調節機構を説明できる。	
5	前後期	「腎臓の使命」 ・腎臓の構造を理解する。	「原子の海」 ・腎の使命は血清Naの維持であることを理解する。 「ネフロン」の構造 ・糸球体や尿細管の各部名称を図示できる。他	福田 道雄
6	前後期	「腎臓のNa調節」 ・尿細管Na再吸収に関わるホルモンを理解する。	「レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系」 ・脱水時に分泌されるホルモンや分泌臓器の名称を図示できる。他	
7	前後期	「蛋白尿と血尿」 ・蛋白尿や血尿の検査法や病的意義を理解する。	「テストページの欠点」 ・テストページ尿蛋白は濃度にすぎず意義が小さいと知っている。 「糸球体由来血尿」 ・腎炎の血尿と泌尿器科的血尿を区別できる。他	

8	前後期	「糸球体疾患総論」 ・糸球体疾患の病理と臨床を関連付ける。	「腎病理」 ・蛋白尿のみを呈する疾患と血尿や腎機能低下を来す疾患の区別ができる。 「腎生検」 ・腎生検の流れを述べることができる。 「臨床分類」 ・腎疾患の臨床分類を列記・説明できる。他	福田 道雄	
9	前後期	「糸球体疾患各論」 ・代表的な糸球体疾患を説明できる。	「急性腎炎」「慢性腎炎」「ネフローゼ」 ・それぞれの代表的疾患を挙げて説明できる。他		
10	前後期	「全身性疾患に伴う糸球体疾患」 ・代表的な疾患を説明できる。	「糖尿病」「全身性エリテマトーデス」 ・それぞれの代表的疾患を挙げて説明できる。他		
11	前後期	「腎不全」 ・急性腎不全や慢性腎不全の分類を説明できる。	「急性腎不全」 ・腎前性・腎性・腎後性腎不全を区別できる。 「慢性腎不全」 ・慢性腎不全で生じる貧血・Ca代謝異常について説明できる。 「透析」 ・血液透析・腹膜透析・移植について比較説明できる。		
12	前後期	「尿路の結石・感染症」 ・尿路結石や感染症の分類や症状を理解する。	「尿路結石」 ・症状・診断・治療について説明できる。 「尿路感染」 ・女性に多く、グラム陰性桿菌によることが多いと述べることができる。		
13	前後期	「尿路・性器腫瘍」 ・主な手術及び術後看護を説明できる。	「腎癌」「膀胱癌」「前立腺肥大」「前立腺癌」 ・診断・治療及びその際の看護を説明できる。他		
14	前後期	「排尿異常」「男性不妊」「先天異常」 ・排尿異常の分類や治療を説明できる。	「下部尿路機能障害」 ・畜尿・排尿の仕組みと障害を分類・説明できる。他		
15	前後期	授業総括 科目試験			
成績評価方法		(高野)筆記試験30%(福田)出席率・筆記試験6割以上・授業での積極性を合計し70%で評価。			
準備学習など		(高野・福田))教科書該当項目を通読しておくこと。			
留意事項		(高野)欠席した場合はレポート課題の提出が必要。 (福田)詳細は別紙参照 A:看護師国家試験に出るためよく理解している必要がある。B:現場に出た時に備え概略を理解しており必要な時に本で確認できる。C:さらに詳しく学びたい学生向けレベル。			

学科・学年	看護科 1学年
科目名	生活行動機能論
担当者	今枝 有利子
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	看護 形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 意識障害・寝たきり〔廃用症候群〕患者への生活行動回復看護技術NISD教本 編：日本ヒューマン・ナーシング研究学会 MCメディカ出版

<p>授業概要と目的</p> <p>人間の日常の生活行動を視点にして学んだ知識の統合を図る。からだの構造・機能を朝起きてから、寝るまでの生活行動の枠組みでとらえて、どのようなメカニズムになっているのかを他者に説明できるように学習することを目的とする。 担当教員は臨床での看護師経験を活かし、生活行動機能について指導する。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「生活行動機能の考え方」 ・生活行動機能の考え方を理解する。	「生活行動機能とは・生活行動機能の目的・日常の生活行動の枠組み」 ・生活行動機能の意味を説明する。 ・生活行動機能の目的を説明する。 ・日常生活行動の枠組みを説明する。	今枝 有利子
2	後期			
3	後期	「生活行動からみるからだの構造機能」 ・生活行動からみるからだの構造機能について理解する。	「事例をもとにグループで生活行動に視点を当てた、からだの構造機能について学習」 ・生活行動に視点を当てたそれぞれのからだの構造機能について考える。 ・それぞれの生活行動機能のメカニズムについてまとめる。 ・生活行動に視点を当てた、からだの構造機能についてグループで考える。 ・生活行動に視点を当てた、からだの構造機能についてグループでまとめる。 ・生活行動に視点を当てた、からだの構造機能についてグループで説明・発表できる。 ・生活行動機能を学ぶ意義を述べる。	
4	後期			
5	後期			
6	後期			
7	後期			
8	後期			
成績評価方法	パフォーマンス課題によるルーブリック評価80点、レポート提出による20点の合計100点の評価とする。			

準備学習など	<ol style="list-style-type: none"> 1. 講義時に指示のあったレポートは期限を守り提出する。(180分) 2. 授業の前後は予・復習を行う。(1日60分の予・復習:8回で480分) 3. 1回目に提示するパフォーマンス課題に則って、第8回目までに作成し提出する。 (8回目までの作成に要する時間:690分) <p>* 課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする。</p>
留意事項	<p>この科目は看護を学ぶうえでの基礎となる科目です。予習、復習を積極的に行い、主体的に学ぶ姿勢で受講してください。これまでの学びを看護実践につなげていけるよう、グループワークをとおして視野を広げ、自己の問いを育む学習方法を習得していきましょう。</p>

学科・学年	看護科 1学年
科目名	感染症学
担当者	岡本 陽
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 微生物学 疾病のなりたちと回復と促進④ 医学書院

授業概要と目的

微生物の特徴・人体に及ぼす影響と免疫に関する基礎的知識を身につけるとともに、病原体に関する知識と感染症の特徴的な様式、病原性、発生・伝播、及びその疾病の予防・治療との関連を学び、感染防止について理解する。
 担当教員は微生物学の知識を活かして指導を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	「微生物学総論」 ・医療分野で必要とされる微生物の生物学的特徴、種類を理解する。	「微生物の構造と機能」 ・微生物の種類と構造の違いや共通点を説明できる。	岡本 陽
2	前期	「滅菌と消毒」 ・医療分野で用いられる滅菌法、消毒法を理解する。	「滅菌法、消毒法、消毒薬について」 ・主な滅菌法、消毒法、消毒薬を挙げ、その特性を踏まえて状況に応じた適切な方法を選択することができる。	
3	前期	「化学療法」 ・抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬の種類と作用メカニズムを理解する。	「化学療法薬の種類、特徴、作用機序」 ・感染症の治療に用いられる薬剤の種類を挙げ、その特徴と作用メカニズムを説明することができる。	
4	前期	「免疫1・自然免疫」 ・食食と炎症を中心とした自然免疫について理解する。	「自然免疫の種類、食食のしくみ、炎症」 ・自然免疫の具体例を挙げて説明することができる。 ・食食による異物排除の仕組みを説明することができる。 ・炎症反応による異物排除を説明できる。	
5	前期	「免疫2・獲得免疫」 ・T細胞とB細胞を中心とした獲得免疫について理解する。	「抗体産生、免疫記憶、二次応答」 ・抗体が産生される仕組みを説明できる。 ・免疫記憶を説明できる。 ・二次応答の仕組みを説明し、ワクチンの作用メカニズムを説明することができる。	
6	前期	「細菌の呼吸器感染症」 ・ワクチンが運用されているものを中心に、細菌を病原体とする呼吸器感染症について理解する。	「結核、ジフテリア症、百日咳、マイコプラズマ肺炎、髄膜炎(肺炎球菌、ヒブ、髄膜炎菌)など」 ・細菌を病原体とする感染症の特徴、予防法、診断法、治療法を説明できる。	
7	前期	「ウイルスの呼吸器感染症」 ・ワクチンが運用されているものを中心に、ウイルスを病原体とする呼吸器感染症について理解する。	「インフルエンザ、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘・帯状疱疹、コロナウイルス感染症」 ・ウイルスを病原体とする感染症の特徴、予防法、診断法、治療法を説明できる。	

8	前期	「消化器感染症」 ・食中毒を中心とした消化器感染症について理解する。	「毒素型食中毒・感染型食中毒」 ・微生物を原因とする食中毒をはじめ、重要な消化器感染症の特徴、症状、予防法について説明できる。	岡 本 陽	
9	前期	「接触感染」 ・接触感染や糞口感染で感染する病原体について理解する。	「ブドウ球菌、レンサ球菌、皮膚糸状菌真菌感染症」 ・グラム陽性球菌による多様な感染症、および皮膚糸状菌による表在性真菌症の症状、特徴について説明できる。		
10	前期	「血液感染・日和見感染」 ・血液を介した感染症、また内因性の日和見感染について理解する。	「B型肝炎、C型肝炎、HIV、および真菌を中心とした日和見感染」 ・HBV、HCV、HIV、および深在性真菌症と深部皮膚真菌症の症状、特徴について説明できる。		
11	前期	「性感染症」 ・性行為を介した感染症について理解する。	「淋菌、性器クラミジア、ヘルペス、HPV」 ・性感染症の特徴、症状、治療法、予防法について説明できる。		
12	前期	「人獣共通感染症・創傷感染」 ・ヒト以外の動物を介した感染症、器物や環境に由来する感染症について理解する。	「破傷風、レジオネラ肺炎、日本脳炎、マラリア、SFTS、エキノコックスなど」 ヒト以外の動物を媒介する人獣共通感染症や、環境に由来する感染症を挙げ、その特徴や症状について説明できる。		
13	前期	「感染症総論」 ・各論をふまえ、特に医療分野に関連した感染症を予防するための考え方について理解する。	「スタンダードプリコーション、感染経路別予防策」 ・感染症の特徴をふまえ、スタンダードプリコーションや感染経路別予防策について感染防御の観点から説明することができる。		
14	前期	「感染症の関連法規」 ・医療分野に必要な感染症に関連した法規について理解する。	「感染症法、学校保健安全法、病原体管理規制、労働安全衛生法、家畜伝染病予防法」 ・医療分野に必要な感染症に関連した法規について、感染症の特性をふまえて説明することができる。		
15	前期	科目試験 授業総括			
成績評価方法		小レポート26%、定期試験74%で評価する			
準備学習など		2-14回に事前学習を課すので、これをふまえて教科書等で学習しておくこと			
留意事項		Classiを使用する場合がある			

学科・学年	看護科 1学年
科目名	臨床薬理学
担当者	池田 義明
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病の成り立ちと回復の促進 医学書院

授業概要と目的

人体への薬物の働きかけや薬物に対する生体側の反応など、薬物治療に関する基礎的知識を学ぶ。
担当教員は薬剤師であり、薬学の知識を活かして指導を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	・薬理学の概要を理解する。	・医薬品の定義を説明することができる。 ・薬物療法における看護師の役割を具体的に述べる ことができる。	池田 義明
2	後期	・薬理学の基礎知識を理解する。	・薬物受容体の働きを説明することができる。 ・酵素の働きと特徴を説明することができる。 ・薬物の吸収から排泄までの動態を具体的に述 べる ことができる。	
3	後期	・薬理学の基礎知識を理解する。	・薬物相互作用の機序を具体的に述べる ことができる。 ・医薬品と法律を関連付けることができる。	
4	後期	・感染症治療薬の作用を理解する。	・抗菌薬の種類を列挙することができる。 ・抗菌薬の作用を説明することができる。 ・抗菌薬の副作用を列挙することができる。 ・抗真菌薬の作用を説明することができる。 ・抗ウイルス薬の作用を説明することができる。	
5	後期	・がん治療薬・免疫抑制薬の作用を 理解する。	・抗がん薬の種類を列挙することができる。 ・抗がん薬の作用を説明することができる。 ・抗がん薬の副作用を列挙することができる。 ・免疫系の働きと特徴を説明することができる。 ・免疫抑制薬の作用を説明することができる。 ・免疫抑制薬の副作用を列挙することができる。	
6	後期	・抗アレルギー・抗炎症薬の作用を 理解する。	・炎症の定義を説明することができる。 ・抗炎症薬の種類を列挙することができる。 ・抗炎症薬の作用を説明することができる。 ・抗炎症薬の副作用を列挙することができる。 ・リウマチ薬の作用を説明することができる。	
7	後期	・末梢神経系作用薬の作用を理解 する。	・自律神経系の働きを説明することができる。 ・筋弛緩薬の作用を説明することができる。 ・局所麻酔薬の作用を説明することができる。	

8	後期	・中枢神経系作用薬の作用を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・中枢神経系の働きを説明することができる。 ・全身麻酔薬の作用を説明することができる。 ・睡眠薬・抗不安薬の作用を説明することができる。 ・睡眠薬・抗不安薬の副作用を列挙することができる。
9	後期	・中枢神経系作用薬の作用を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・抗精神病薬の種類を列挙することができる。 ・抗精神病薬の作用を説明することができる。 ・抗精神病薬の副作用を列挙することができる。 ・抗うつ薬・気分安定薬の作用を説明することができる。 ・抗パーキンソン病薬の作用を説明することができる。 ・抗パーキンソン病薬の副作用を列挙することができる。 ・抗てんかん薬の作用を説明することができる。 ・抗てんかん薬の副作用を列挙することができる。 ・麻薬性鎮痛薬の作用を説明することができる。 ・麻薬性鎮痛薬の副作用を列挙することができる。
10	後期	・循環器系作用薬の作用について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・降圧薬の種類を列挙することができる。 ・降圧薬の作用を説明することができる。 ・降圧薬の副作用を列挙することができる。 ・狭心症治療薬の作用を説明することができる。 ・狭心症治療薬の副作用を列挙することができる。 ・心不全治療薬の作用を説明することができる。 ・心不全治療薬の副作用を列挙することができる。
11	後期	・循環器系作用薬の作用について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・抗不整脈薬の種類を列挙することができる。 ・抗不整脈薬の作用を説明することができる。 ・利尿薬の種類を列挙することができる。 ・利尿薬の作用を説明することができる。 ・血液凝固系の働きを説明することができる。 ・血液作用薬の作用を説明することができる。 ・血液作用薬の副作用を列挙することができる。
12	後期	・呼吸・消化器系作用薬の作用について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・気管支ぜんそく治療薬の種類を列挙することができる。 ・気管支ぜんそく治療薬の作用を説明することができる。 ・消化性潰瘍治療薬の種類を列挙することができる。 ・消化性潰瘍治療薬の作用を説明することができる。

池田
義明

13	後期	・消化器・生殖器系作用薬の作用について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・下剤の種類を列挙することができる。 ・下剤の作用を説明することができる。 ・女性生殖器系薬の作用を説明することができる。 ・女性生殖器系薬の副作用を列挙することができる。 ・男性生殖器系薬の作用を説明することができる。 ・男性生殖器系薬の副作用を列挙することができる。
14	後期	・物質代謝作用薬・皮膚科用薬・眼科用薬・救急時の使用薬について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ホルモンの働きと特徴を説明することができる。 ・糖尿病治療薬の種類を列挙することができる。 ・糖尿病治療薬の作用を説明することができる。 ・糖尿病治療薬の副作用を列挙することができる。 ・骨粗鬆症治療の種類を列挙することができる。 ・骨粗鬆治療薬の作用を説明することができる。 ・救急時に用いる薬剤の種類を列挙することができる。 ・救急時に用いる薬剤の作用を説明することができる。 ・輸液製剤の種類を列挙することができる。
15	後期	科目試験 授業総括	
成績評価方法		試験80%、授業態度20%(特に私語は減点する)	
準備学習など		事前に教科書を読んでおくこと。	
留意事項		復習は必ず行うこと。出席表に記載した質問は次回講義冒頭で解説する。	

学科・学年	看護科 1学年
科目名	関係法規
担当者	小林茂浩
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度④ 医学書院

授業概要と目的

人口の急速な高齢化と著しい出生率の低下により、疾病構造の変化とともに、医療・介護・年金など我が国の社会保障制度の変革が急速に進んでいることの意味、的確に対応するために、新法の制定や法令の改正について学びと関連について理解できる基礎的知識を養うことを目的としている。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	「法の概念」	「法の概念とその目的」 ・法の概念と目的を説明できる。	小林茂浩
2	通年	「看護関係法令」	「保健師助産師看護師法」 ・看護師の役割、責務等を法令を通して説明できる。 「看護師等の人材確保の促進に関する法律」 ・看護師等の人材確保の促進に関する法律を説明できる。	
3	通年			
4	通年			
5	通年			
6	通年	「医事法」	「医事法の仕組み」 ・医事法の仕組みが説明できる。	
7	通年			
8	通年	「保健衛生法・環境衛生法」	「保健衛生法・環境衛生法の仕組み」 ・保健衛生法・環境衛生法の仕組みが説明できる。	
9	通年			
10	通年	「薬事法」	「薬事一般に関する法律とその仕組み」 ・薬事一般に関する法律とその仕組みが説明できる。	
11	通年			
12	通年	「労働法と社会基盤整備」	「労働法の仕組み」 ・労働法の仕組みが説明できる。	
13	通年			
14	通年	「環境法」	「環境保全の基本法の仕組み」 ・環境保全の基本法の仕組みが説明できる。	
15	通年	科目試験 授業総括		
成績評価方法	筆記試験80点、レポート課題20点(評価基準については後日明示する)の合計100点の評価とする。			
準備学習など				
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	看護学へのとびら
担当者	佐藤直美
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義 演習
教科書・参考書	基礎看護学講座 看護学概論 医学書院 ナイチンゲールの『看護覚え書』 西東社 誰でもわかる看護理論 サイオ出版

授業概要と目的

初めて看護を学ぶ学生への導入として看護の構成要素である人間・健康・環境・看護について考える機会を設定し多様なとらえ方があることを認識できることを目的とする。また自分の考え理論的に他者に説明できるための基礎知識を持ち今後学んでいく授業・実習の基礎となる科目として位置づける。看護師として必要不可欠な看護倫理を事例を通して学ぶことでその重要性を認識できる科目とする。
担当教員は、臨床での看護師経験を活かし、看護学の基本を学ぶ授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	1看護とは何かを知ることができる	1看護の概念 1) 看護概論を学ぶ意味 2) 看護とは	佐藤直美
2	前期	1看護とは何かを知ることができる 2 看護の歴史の変遷を理解する	1看護の概念 1) 看護とは何か	
3	前期	1先駆者の看護の考え方をすることができる	1看護の概念 1) 看護理論とは 2) 先駆者の看護理論の特徴	
4	前期	1先駆者の看護の考え方をすることができる	1看護の概念 1) 先駆者の看護理論の特徴	
5	前期	1先駆者の看護の考え方をすることができる	1看護の概念 1) 先駆者の看護理論の特徴	
6	前期	1先駆者の看護の考え方をすることができる	1看護の概念 1) 先駆者の看護理論の特徴	
7	前期	1看護を構成する基本的な概念を知ることができる	1人間とは 1) 統合体としての人間 2) 発達段階から見た人間の理解	
8	前期	1看護を構成する基本的な概念を知ることができる	1健康とは 1) 生活と健康 2) 健康レベルと看護 3) 健康の指標	
9	前期	1看護を構成する基本的な概念を知ることができる	1環境とは 1) 環境と人間の相互作用 2) 環境と健康の相互作用	

10	前期	1看護を構成する基本的な概念を知ることができる	1看護とは 1) 自分の看護観を明確にする	佐藤直美
11	前期	1看護師の役割を理解する 2保健医療福祉チームの中での看護師の役割を理解する	1看護活動展開の場と看護の機能 1) 看護師の役割 2) 保健医療福祉チームの仲介と調整	
12	前期	1保健医療福祉チームの中での看護師の役割を理解する 2現代の保健医療福祉活動における看護の特徴を理解する	1看護活動展開の場と看護の機能 1) 保健医療福祉チームの仲介と調整 2) 現代の保健医療福祉活動における看護の特徴	
13	前期	1医療行為における倫理について理解する 2基本的人権の擁護について理解する	1看護倫理 1) 医療行為の本質と倫理 2) 基本的人権の擁護	
14	前期	1看護師に必要な倫理について理解する 2看護の場で生じやすい倫理上の問題について理解する	1看護倫理 1) 看護師に必要な倫理 2) 発生しやすい倫理上の問題	
15	前期	1) 授業総括 2) 科目試験		
成績評価方法		授業の参加状況 レポート課題		
準備学習など				
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	看護実践への架け橋
担当者	兼山美千代
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学技術 I 医学書院 患者さんの情報収集ガイドブック メヂカルフレンド社 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学② 呼吸器 医学書院

授業概要と目的

看護を発展させていく架け橋となるように、学習した理論や枠組みを用いて看護師が看護の思考を表現していくツールにおける基本的知識を学ぶ。
 看護を科学的・論理的に実践する方法論としての看護過程について、その意義や目的、看護過程の各段階を学ぶ。
 ゴードンの枠組みを用いて、看護理論と看護過程の架け橋となるように、基本的な看護過程の展開を習得する。
 担当教員は、臨床での看護師経験を活かし、対象のニーズに即した看護実践を行うためのツールである看護過程の基本を学ぶ授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	後期	「看護の発展への架け橋」 ・看護における記録・報告の意義・必要性を理解する。	「看護の発展を架け橋する方法」 「看護の発展における情報の共有」 ・記録、報告の意義と必要性を説明する。 ・看護記録に関する法的規定を列挙する。 ・看護記録の種類について説明する。	兼山 美千代
2	後期	「実践へ架け橋する看護の展開」 ・実践へ架け橋となる看護過程の概念と構成要素を理解する。	「実践へ架け橋する看護の展開方法」 ・看護過程の意義と目的を述べる。 ・看護過程の5つの構成要素を述べる。 ・5つの構成要素の関係性を説明する。 ・アセスメントの思考と必要性を述べる。	
3	後期	「実践へ架け橋する看護の展開」 ・看護過程の基盤の考え方と展開の基礎的知識を理解する。	「看護過程の基盤となる考え方」 ・問題解決過程、クリティカルシンキング、リフレクション、臨床推論と臨床判断について述べる。 「ゴードンの機能的健康パターンによる問題解決過程方法」 ・ゴードンの機能的健康パターンによる看護展開の概略を述べる。	

4	後期	「実践へ架け橋する看護の展開」 ・事例を通して、看護過程を展開する。	「気胸事例で看護展開するための準備」(GW) ・看護過程の基礎知識について記述する。(小テスト) ・看護過程の展開のオリエンテーションから進め方を知る。 ・紙上事例の文脈理解について言語化する。 ・事例の疾患の病態、治療について調べる。	
5	後期	「実践へ架け橋する看護の展開」 ・事例を通して、看護過程を展開する。	「紙上事例の病態理解と情報収集」(GW) ・事例の疾患の病態、治療を説明する。 ・ゴードンの11の機能的健康パターンの枠組みに沿って、S情報とO情報に整理する	
6	後期	「実践へ架け橋する看護の展開」 ・事例を通して、看護過程を展開する。	「紙上事例からの情報収集」(GW) ・ゴードンの11の機能的健康パターンの枠組みに沿って整理した情報を共有する。 ・不足している情報収集内容を確認し、収集方法を考える。	
7	後期	「実践へ架け橋する看護の展開」 ・事例を通して、看護過程を展開する。	「病室、患者からの情報収集」(GW) ・病室へ行き、情報ガイドブックを用いて、不足している情報を収集し整理する。 ・全体で追加情報を共有する。 ・11項目の整理した情報を共有する。	
8	後期	「実践へ架け橋する看護の展開」 ・事例を通して、看護過程を展開する。	「整理した情報の解釈・分析」(GW) ・主要1項目(健康-知覚)の情報のアセスメント(解釈・分析)を記述する。 ・アセスメント内容を共有する。	
9	後期	「実践へ架け橋する看護の展開」 ・事例を通して、看護過程を展開する。	「整理した情報のアセスメント」(GW) ・主要5項目の情報の解釈と分析を記述する。 ・アセスメント内容を共有するための意見交換をする。 ・アセスメント内容の修正・追加記録をする。	
10	後期	「実践へ架け橋する看護の展開」 ・事例を通して、看護過程を展開する。	「全体像を理解する関連図」(GW) ・情報の関連性に気づく。 ・全体像を関連図として表現する。	兼山 美千代
11	後期	「実践へ架け橋する看護の展開」 ・事例を通して、看護過程を展開する。	「看護問題の抽出」(GW) ・関連図から、看護問題を記述する。 ・表記ルールに則り、看護問題を表記する。 ・看護問題の優先順位を根拠をもって述べる。	

12	後期	「実践へ架け橋する看護の展開」 ・事例を通して、看護過程を展開する。	「看護計画の立案」(GW) ・観察計画、実施計画、教育計画にわけて記録する。 ・目標、評価日を設定する。
13	後期	「実践へ架け橋する看護の展開」 ・事例を通して、看護過程を展開する。	「看護援助の実施」 ・計画した看護の一部を実践するため、援助練習をする。
14	後期	「実践へ架け橋する看護の展開」 ・事例を通して、看護過程を展開する。	「看護援助の実施」 ・看護計画を事例患者に実践する。 ・実践した看護をSOAPで記録する。 「看護問題の評価」
15	後期	・看護過程について学びを総括する。	「学びのまとめ」 ・看護過程の必要性について、事例学習からの学びを述べる。 ・看護実践への架け橋の授業の学びと課題について具体的に述べる。
成績評価方法	小テスト10点、看護過程記録(ルーブリック評価90点:評価規準・基準、記録の提出については、始講時に説明)の合計100点の評価とする。		
準備学習など	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の予習として該当ページを読んでくる。(1回15分×14) 2. 授業外で自己課題学習(記録用紙使用)に取り組み、疑問点をもって次の授業に臨む。(1回45分×14) 3. グループで計画した看護実践の練習を行う。(45分) 4. 提出する記録類の追加、修正を行う。(45分×2) 		
留意事項	<p>この科目は、看護を学ぶうえで基盤となる科目です。予習・復習を主体的に行い、学習目標を達成できるよう計画的に個人ワークを行い、授業内で意見交換を行い理解できるようにしてください。学習をすすめるためには、既習の解剖整理や病態の知識を必要としますので、授業資料等の整理や復習をしておきましょう。個人ワークで理解が進まない場合は、オフィスアワー(事前に担当教員に日時の相談が必要)を活用してください。クラスメートと学びあえる学習環境を一緒に作っていきましょう。</p>		

学科・学年	看護科 1学年
科目名	看護におけるコミュニケーション
担当者	菊井 友
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学技術 II 医学書院 会話分析でわかる看護師のコミュニケーション技術 中央法規

授業概要と目的

すべての看護技術に共通する技術として、対象に看護をとどけるための核となる「コミュニケーション」の基本的知識・技術・態度について習得する。そして看護師としての役割と責務を理解し、対象へ看護をとどけるためのコミュニケーションの実践方法を学ぶ。
担当教員は、臨床での看護師経験を活かし、看護におけるコミュニケーションの基本を学ぶ授業を行う。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	「看護におけるコミュニケーションの考え方」	コミュニケーションの意味を知る 看護・医療におけるコミュニケーションの目的が説明できる 看護・医療におけるコミュニケーションの重要性が説明できる	菊井 友
2	前期	コミュニケーションの構成要素と成立過程	コミュニケーションの構成要素が説明できる ミスコミュニケーションを避ける方法が説明できる	
3	前期	看護専門職として備えるべきコミュニケーション能力のポイント	プロセスレコードの書き方がわかる コミュニケーションに必要な基本的な態度がわかる	
4	前期	関係構築のためのコミュニケーションの基本	看護・医療におけるコミュニケーションの基本的な態度がわかる 人間関係構築のためのポイントがわかる	
5	前期	効果的なコミュニケーションの実際	傾聴の技術 情報収集の技術	
6	前期	「医療チームにおけるコミュニケーションとコミュニケーションに障害がある場合の方法」	・チームにおけるコミュニケーションの意義を説明できる。 ・コミュニケーション障害がある対象へのかかわり方が説明できる。	
7	前期	自分に気づく	自己のコミュニケーションの課題に気づくことができる	
8	前期	科目試験(45分)		
成績評価方法	リフレクションシート30点、演習課題20点、筆記試験50点の合計100点の評価とする。			
準備学習など	事前学習の指示がある場合は講義の開始までに準備を整えておきましょう。事前の準備が不十分の場合は講義の理解が難しくなる場合があります。			
留意事項	この科目は看護を学ぶうえでの基礎となる科目です。積極的に学ぶ姿勢で受講してください。看護師にとって必要なスキルとなります。日常生活の対人関係においてもコミュニケーション意識しコミュニケーション技術を習得をしていきましょう。			

学科・学年	看護科 1学年
科目名	看護における安全と環境
担当者	高橋 千恵子 ・ 新家 陽子
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 竹尾恵子 学研メディカル秀潤社

<p>授業概要と目的</p> <p>すべての看護技術に共通する技術として、対象に看護をとどけるための核となる「安全」「感染予防」「環境調整」の基本的知識・技術・態度について習得する。そして看護をとどける看護師としての役割と責務を理解し、対象への安全の確保とともに自分の身を守るための視点と実践方法を学ぶ。</p> <p>担当教員は、臨床での看護師経験、専門的知識を活かし、看護師としての安全を守る方法ならびに安全で安楽な療養環境を整える方法を指導する。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標 (GIO)	「授業内容」 到達目標 (SBOs)	担当者
1	前期	<p>「看護技術へのとびら」</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護技術を学ぶ意義を知る。 <p>「看護における安全」</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護における安全の意義と取り組みを知る。 	<p>「看護技術を学ぶにあたって」</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護技術を学ぶ意義を述べる。 看護技術をどのように学ぶ姿勢を自覚する。 <p>「看護における安全」</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護における安全の意義と医療場面での危険因子を述べる。 ヒューマンエラーの特性を述べる。 事故防止への取り組みを述べる。 インシデント・アクシデント報告の意義を述べる。 	高橋 千恵子
2	前期	<p>「看護における安全」</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護における安全を守る方法を知る。 療養生活の場としての環境調整に必要な知識を理解する。 	<p>「看護における安全を守る方法」</p> <ul style="list-style-type: none"> ボディメカニクスの必要性和方法を説明できる。 療養生活としての安全に気づく。 安全な療養生活ができる方法を述べる。 	
3	前期	<p>「安全を守る技術」</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護における安全を守るための感染予防の基本的技術を習得する。 	<p>「感染予防の技術」</p> <ul style="list-style-type: none"> 衛生的手洗いができる。 <ul style="list-style-type: none"> スクラブ法 ラビング法 	
4	前期	<p>「安全を守る技術」</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全な看護における感染予防に必要な基本的知識を理解する。 	<p>「感染予防に必要な基本的知識」</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染の定義、意義を述べる。 感染予防に必要な用語について述べる。 感染成立の要件、成立過程を述べる。 感染予防の3原則を列挙する。 標準予防策(スタンダードプリコーション)について説明する。 	

5	前期	「安全を守る技術」 ・感染予防の実際を理解する。 ・感染予防における看護師の役割と責務について理解する。	「感染予防の実際」 ・感染経路予防策を述べる。 ・防護用具について説明する。 ・洗浄・滅菌、消毒の説明をする。 ・滅菌物の取り扱いについて説明する。 ・医療廃棄物の取り扱いについて説明する。 「感染管理組織体制」 ・感染対策チーム (ICT) について述べる。 「リンクナース」 ・リンクナースの役割を述べる。	新家 陽子
6	前期	「安全を守る技術」 ・看護における安全を守るための感染予防の基本的技術を習得する。	「感染予防の技術」 ・防護用具の着脱ができる。 ・マスク ・手袋 ・プラスチックエプロン ・ゴーグル ・キャップ	
7	前期	「安全を守る技術」 ・看護における安全を守るための感染予防の基本的技術を習得する。	「感染予防の技術」(校内実習) ・医療廃棄物の取り扱いができる。 ・無菌操作ができる。 ・鑷子の取り出し ・綿球の取り出しと受け渡し	
8	前期	「安全を守る技術」 ・看護における安全を守るための感染予防の基本的技術を習得する。	[感染予防の技術](校内実習) ・滅菌物の取り扱いができる。 ・滅菌包の開け方 ・滅菌手袋の装着と外し方 ・防護用具の必要度、着脱の順序を考える。	
9	前期	「環境調整の技術」 ・看護における環境調整の基本的技術を習得する。	「環境調整の基本的技術」 ・寝心地の良いベッドメイキングについて考えることができる。 ・グループで協力し技術習得に臨む。	高橋 千恵子
10	前期	「環境調整の技術」 ・ボディメカニクスの基本的な考え方を理解する。	「環境調整の援助」 ・病床・環境整備を実施する。 ・ベッドメイキングに取り組む。	
11	前期	「環境調整の技術」 ・看護における環境調整の基本的看護技術を習得する。	「環境調整の実際」(校内実習) ・ベッドメイキングができる ・ボディメカニクスを活用できる	
12	前期	「環境調整の技術」 ・看護における環境調整の基本的看護技術を習得する。	「環境調整の実際」(校内実習) ・臥床患者のシーツ交換ができる。	
13	前期	「環境調整の技術」 ・看護における環境調整の基本的看護技術を習得する。	「環境調整の実際」(校内実習) ・環境調整する上でのアセスメントの視点の意見交換をする。(GW) ・療養環境の整備ができる。	
14	前期	「技術試験」	「臥床患者のシーツ交換」	
15	前期	学びの総括 筆記試験		
成績評価方法		筆記試験80点、課題10点、技術10点の合計100点の評価とする。		
準備学習など		1. 授業の予習として該当ページを読んだり、視覚教材を視聴してくる。(1回15分×14) 2. 授業後には、「述べる」「説明をする」到達目標の内容の復習を行う。(1回20分×14) 3. 習得する看護技術のセルフトレーニングを行う。(300分)		

留意事項	<p>この科目は、看護を学ぶうえで基礎となる科目です。予習・復習を主体的に行い、自ら学ぶ姿勢で受講してください。また、看護技術の習得には、技術の錬磨が必要です。クラスメートと協同して技術習得に臨みましょう。看護の対象が安心できる療養環境で安全な医療を受けることができるためには、日頃から保健・医療・福祉の報道やニュースに関心をもつなど、自らの問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。</p>
------	--

学科・学年	看護科 1学年
科目名	看護における観察
担当者	野村あすか
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 看護学概論 医学書院 ナイチンゲール伝 茨木 保 医学書院

<p>授業概要と目的</p> <p>看護の対象者を看護学的視点から理解するために、対象者の健康状態(行動)を客観的・主観的に明らかにする方法として、観察の技術とアセスメントの意義を学ぶ。さらに、生命の兆候であるバイタルサイン及び身体計測の基本的看護技術の知識・技術・態度を習得する。 担当教員は、臨床での看護師経験、専門的知識を活かし指導する。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	「看護師における観察の意味するもの」	・看護における観察の意義・目的が説明できる。	野村 あすか
2	前期	「看護フィジカルアセスメント」	・フィジカルアセスメントの構成と考え方について説明できる。系統別フィジカルアセスメントの基本的考え方を説明できる。	
3	前期	「バイタルサイン」	・バイタルサインに必要な測定用器具の使用 方法・管理方法について説明できる。	
4	前期	「バイタルサイン」	・バイタルサイン測定の方法が説明できる。バイタルサインの数値への影響因子を述べる。	
5	前期	「意識に関連したアセスメント」	・JCS・GCSが説明できる。	
6	前期	「意識に関連したアセスメント」	・JCS・GCSを用いて観察できる。	
7	前期	「呼吸器に関連したアセスメント」	・呼吸の観察方法が説明できる。	
8	前期	「呼吸器に関連したアセスメント」	・呼吸の観察ができる。	
9	前期	「循環に関連したアセスメント」	・循環の観察方法が説明できる。	
10	前期	「循環に関連したアセスメント」	・循環の観察ができる。	
11	前期	「神経・筋・骨格系に関連したアセスメント」	・神経系の観察ができる。 ・関節可動域の観察ができる。	
12	前期	「腹部に関連したアセスメント」	・腹部の観察方法が説明できる。 ・腹部の観察ができる。	
13	前期	「臨床推論(事例)」	・シミュレーターを用いて、フィジカルアセスメントが実施できる。	

14	前期	「臨床推論(事例)」	・シミュレーターを用いて、フィジカルアセスメントが実施できる。	野村
15	前期	授業総括 評価試験	・フィジカルアセスメントの意義を説明できる。	あすか
成績評価方法	評価:筆記試験45点、リフレクションペーパーの提出15点、技術試験40点の合計100点の評価とする。			
準備学習など	1. 授業の前後は予・復習を行う。(1日10分の予・復習:15回で150分) 2. 授業後、疑問点を整理し解消する。(1日5分:15回で75分) 3. 事前に演習に取り組む準備と、事後のセルフトレーニングを行う。(400分) 4. 視聴覚教材による自己学習。(50分) * 課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする。 * 技術試験を行うため、十分に練習をして臨む。			
留意事項	この科目は看護を学ぶうえでの基礎となる科目です。予習、復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。看護師にとって観察するためには必要なスキルとなります。練習を繰り返し行い、臨床推論ができるように技術の習得をしていきましょう。			

学科・学年	看護科 1学年
科目名	臨床判断と看護技術 I 呼吸する
担当者	岩田 幸代
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学技術 I 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学技術 II 医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護学総論 医学書院 看護技術プラクティス 竹尾恵子 学研メディカル秀潤社 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント メディックメディア

授業概要と目的
<p>対象の生命と生活を護るために必要な「呼吸を整える」看護援助を論理的、実践的に学び、基本的な看護技術を修得する。また、講義・演習での知識を統合し、事例を通して、科学的根拠を踏まえた看護を実践するための臨床判断能力を養い、対象の生活を捉えながらその人らしく健康的な生活が送れるよう、呼吸を整えるための基本的看護技術の知識・技術・態度を学ぶ。</p> <p>担当教員は臨床での看護師経験を活かし、看護技術を指導する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	前期	・呼吸を整えるための基礎知識について理解する。	・呼吸のメカニズムを述べる。	岩田 幸代
2	前期	・呼吸を整えるための基礎知識について理解する。	・呼吸障害による心身への影響を述べる。	
3	前期	・呼吸を整えるための基礎知識について理解する。	・呼吸を整えることを阻害する因子を述べる。	
4	前期	・呼吸を整えるための援助について理解する。	・酸素療法の目的と種類を述べる。 ・酸素供給の設備と容器を述べる。 ・酸素療法中の看護を述べる。	
5	前期	・呼吸を整えるための援助について理解する。	・気道内貯留物の除去の方法を述べる。 ・一時的吸引の目的と種類を述べる。	
6	前期	・呼吸困難のある対象への援助を実施する。 ・事例におけるヘルスアセスメントと臨床判断を実施する。	・呼吸困難のある対象に必要なヘルスアセスメントを実施する。 ・呼吸困難のある対象のヘルスアセスメントに応じた臨床判断を検討する。	
7	前期	・呼吸困難のある対象への援助を実施する。	・呼吸困難のある対象へ呼吸を整えるための援助を検討する。	

8	前期	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸困難のある対象への援助を実施する。 	(校内実習) <ul style="list-style-type: none"> 酸素療法(カニューレ、マスクの取り扱い)を実施する。 酸素ボンベ、酸素流量計の取り扱い、酸素ボンベの残量計算を実施する。 呼吸困難のある対象への酸素療法を実施する。 酸素療法実施後の観察をする。 	岩田 幸代	
9	前期				
10	前期	<ul style="list-style-type: none"> 去痰困難のある対象への援助を実施する。 事例におけるヘルスアセスメントと臨床判断を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 去痰困難のある対象に必要なヘルスアセスメントを実施する。 去痰困難のある対象のヘルスアセスメントに応じた臨床判断を検討する。 		
11	前期	<ul style="list-style-type: none"> 去痰困難のある対象への援助を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 喘鳴のある対象へ呼吸を整えるための援助を検討する。 		
12	前期	<ul style="list-style-type: none"> 去痰困難のある対象への援助を実施する。 	(校内実習) <ul style="list-style-type: none"> 体位の調整・体位ドレナージを実施する。 吸引(一時的吸引:口腔、鼻腔、気管)を実施する。 去痰困難のある対象への吸引を実施する。 吸引実施後の観察をする。 		
13	前期				
14	前期	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸を整えるための援助について評価する。 	<ul style="list-style-type: none"> 事例におけるヘルスアセスメントと臨床判断について評価を述べる。 事例に適応した援助について評価を述べる。 		
15	前期	授業総括 科目試験			
成績評価方法		筆記試験80点、技術(校内実習)課題20点の合計100点の評価とする。			
準備学習など		<ol style="list-style-type: none"> 授業の前後は予・復習を行う。(1日10分の予・復習:15回で150分) 授業後、疑問点を整理し解決する。 事前に校内実習に取り組む準備、校内実習後のセルフトレーニングを行う。(400分) 視覚教材による自己学習を行う。(50分) *課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする。			
留意事項		この科目は、看護学を学ぶ上で必要な知識となる科目です。予習・復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学習が必要です。日頃から保健・医療・福祉に関する新聞記事やニュースなどの報道に関心を持つなど、色々なことに関心を持ち、多くの体験と学習をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。			

学科・学年	看護科 1学年
科目名	臨床判断と看護技術Ⅱ 循環する
担当者	植田 ひろみ
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護学総論 医学書院 フィジカルアセスメントがみえる メディクメディカ

授業概要と目的

対象の生命と生活を護るために必要な「循環・体温を整える」看護援助を論理的、実践的に学び、基本的な看護技術を修得する。また、講義・演習での知識を統合し、事例を通して、科学的根拠をふまえた看護を実践するための臨床判断能力を養い、対象の生活を捉えながらその人らしく健康的な生活が送れるよう、循環、体温を整えるための基本的看護技術の知識・技術・態度を学ぶ。
 担当教員は臨床での看護師経験を活かし、看護技術を指導する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	「循環・体温を整えるための援助の基礎知識」	・循環・体温のメカニズムを説明ができる。	植田 ひろみ
2	後期	「循環・体温を整えることに関するアセスメント」	・循環障害、体温による心身への影響をアセスメントできる。	
3	後期	「循環・体温を整えることに関するアセスメント」	・循環・体温を阻害する因子をアセスメントできる。	
4	後期	「循環・体温を整えるための援助」	・体位の種類と特徴をふまえ良肢位について説明できる。	
5	後期	「循環・体温を整えるための援助」	・廃用性症候群について説明することができる。	
6	後期	「循環・体温を整えるための援助」	・罨法について説明できる。	
7	後期	「循環・体温を整えるための臨床判断と看護技術」	「廃用症候群における対象への循環を整えるための援助」(校内実習) ・事例におけるヘルスアセスメントと臨床判断ができる。	
8	後期		・体動制限、疼痛のある対象への循環を整えるための援助としてポジショニング・良肢位が実施できる。	
9	後期		「血圧変動のある対象の援助」(校内実習) ・事例におけるヘルスアセスメントと臨床判断ができる。	
10	後期		・血圧変動のある対象への循環を整えるための援助として体位交換・体位の工夫ができる。	

11	後期	「循環・体温を整えるための臨床判断と看護技術」	「浮腫のある対象への援助」(校内実習) ・事例におけるヘルスアセスメントと臨床判断ができる。 ・浮腫のある対象への循環を整えるための援助として足浴・手浴ができる。
12	後期		
13	後期	「循環・体温を整えるための臨床判断と看護技術」	「体温変動のある対象の援助」(校内実習) ・事例におけるヘルスアセスメントと臨床判断ができる。 ・熱感、悪寒のある対象への体温を整えるための援助として罨法ができる。
14	後期		
15	後期	授業総括 科目試験	
成績評価方法	試験はペーパーテストですが、レポート提出や課題提出も評価になります。授業態度や忘れもの、演習での身なりなどの準備力も評価対象です。		
準備学習など	1. 授業の前後は予・復習を行う。 2. 生命維持の最も基本であり重要な学習です。レポート課題や関連した疑問は積極的に調べ学習を行い、知識・技術の定着ができるようにしましょう。作成した資料・レポートは実習に活用します。 * 課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする。		
留意事項	この単元で学ぶことは、人が生命を維持するために必要な、また体調の変化としていち早く表れるサインであり、看護の観察としても最も重要な知識となります。予習、復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学習が必要です。日頃から色々なことに興味を持ち、多くの体験と学習をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。		

学科・学年	看護科 1学年
科目名	臨床判断と看護技術Ⅲ 感じる・動く・休む
担当者	鈴木幸子
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護学総論 医学書院 看護技術プラクティス 竹尾恵子 学研メディカル秀潤社 フィジカルアセスメントがみえる メディクメディカ

授業概要と目的
<p>対象の生命と生活を護るために必要な「感じる・動く・休むことを整える」看護援助を論理的、実践的に学び、基本的な看護技術を修得する。また、講義・演習での知識を統合し事例を通して、科学的根拠を踏まえた看護を実践するための臨床判断能力を養い、対象の生活を捉えながらその人らしく健康的な生活が送れるよう、感じる・動く・休むことを整えるための基本的看護技術の知識・技術・態度を学ぶ。</p> <p>担当教員は臨床での看護師経験を活かし、看護技術を指導する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	「感じる、動く、休む」を整える(1) ・「感じる、動く、休む」を整えるための基礎知識について理解する。	「感じる、動く、休むことを整える意義」 ・感じる、動く、休むことを整える意義を述べる。	鈴木 幸子
2	通年	「感じる、動く、休む」を整える(2) ・「感じる、動く、休む」を整えるための基礎知識について理解する。	「感じる、動く、休むことを整えるための基礎知識」 ・良い姿勢、良肢位を述べる。 ・体位の基本を述べる。	
3	通年	「感じる、動く、休む」を整える(3) ・「感じる、動く、休む」を整えるための基礎知識について理解する。	「感じる、動く、休むことに関するアセスメント」 ・感じる、動くことによる 心身への影響を説明する。 ・セルフケア活動について述べる。 ・セルフケア活動を阻害する因子を述べる。	
4	通年	「感じる、動く、休む」を整える(4) ・「感じる、動く、休む」を整えるための基礎知識について理解する。	「休むことを整えるための基礎知識とアセスメント」 ・睡眠の種類を述べる。 ・睡眠制御のメカニズムを述べる。 ・睡眠障害のアセスメントを説明する。 ・休むことを整える援助方法を述べる。	
5	通年	「感じる、動く、休む」を整える(5) ・「感じる、動く、休む」ことを整える援助技術を身につける	「感じる、動く、休むことを整える援助」 ・体位変換の方法を述べる。 ・体位の保持の援助方法を述べる。	
6	通年	「感じる、動く、休む」を整える(6) ・「感じる、動く、休む」ことを整える援助技術を身につける	「感じる、動く、休むことを整える援助」(校内実習) ・体位変換を実施する。 ・体位の保持の援助を実施する。	

7	通年	「感じる、動く、休む」を整える(7) ・「感じる、動く、休む」を整える援助技術を身につける	「感じる、動く、休むことを整える援助」 ・歩行の援助について説明する。 ・車いすの移乗・移送について説明する。 ・ストレッチャーの移乗・移送について説明する。	鈴木 幸子
8	通年	「感じる、動く、休む」を整える(8) ・「感じる、動く、休む」を整える援助技術を身につける	「感じる、動く、休むことを整える援助」(校内実習) ・歩行の援助を実施する。 ・車いすの移乗・移送を実施する。	
9	通年	「感じる、動く、休む」を整える(9) ・「感じる、動く、休む」を整える援助技術を身につける	「感じる、動く、休むことを整える援助」(校内実習) ・ストレッチャーの移乗・移送を実施する。	
10	通年	「感じる、動く、休む」を整えるための臨床判断と看護技術(1) ・麻痺のある対象の臨床判断と看護技術について理解する。	「麻痺のある対象への移動援助」(校内実習) ・事例におけるヘルスアセスメントと臨床判断を検討する。	
11	通年	「感じる、動く、休む」を整えるための臨床判断と看護技術(2) ・麻痺のある対象の臨床判断と看護技術について理解する。	「麻痺のある対象への移動援助」(校内実習) ・事例におけるヘルスアセスメントと臨床判断を説明する。	
12	通年	「感じる、動く、休む」を整えるための臨床判断と看護技術(3) ・麻痺のある対象の臨床判断と看護技術について理解する。	「麻痺のある対象への移動援助」(校内実習) ・麻痺のある対象へ車椅子への移乗、移送による移動の援助方法を検討する。	
13	通年	「感じる、動く、休む」を整えるための臨床判断と看護技術(4) ・麻痺のある対象の臨床判断と看護技術について理解する。	「麻痺のある対象への移動援助」(校内実習) ・麻痺のある対象へ車椅子への移乗、移送による移動の援助を実施する。	
14	通年	「感じる、動く、休む」を整えるための臨床判断と看護技術(7) ・眠れない対象の臨床判断と看護技術について理解する。	「眠れない対象への移動援助」(校内実習) ・睡眠・休息を整える援助を実施する。	
15	通年	授業総括 科目試験		
成績評価方法	筆記試験80点、技術(校内実習)課題20点の合計100点の評価とする。			
準備学習など	この科目は、看護学を学ぶ上で必要な知識となる科目です。予習・復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学習が必要です。日頃から保健・医療・福祉に関する新聞記事やニュースなどの報道に関心を持つなど、色々なことに関心を持ち、多くの体験と学習をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。			
留意事項	1. 授業の前後は予・復習を行う。(1日10分の予・復習:15回で150分) 2. 授業後、疑問点を整理し解決する。 3. 事前に校内実習に取り組む準備、校内実習後のセルフトレーニングを行う。(400分) 4. 視覚教材による自己学習を行う。(50分) *課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする。			

学科・学年	看護科 1学年
科目名	臨床判断と看護技術Ⅳ 身なりを整える
担当者	野村あすか
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 竹尾恵子 学研メディカル秀潤社 症状・徴候を看る力! 岡元和文編著 総合医学社

授業概要と目的

この単元では、身なりを整える看護技術について学ぶ。人間にとって身なりを整え、清潔を保つことは、入院中であつても社会性を維持するうえで重要である。清潔援助が、単に清潔を保ち爽快感を提供するだけではなく、肌に触れる温度や触感などを通し、看護者のいたわりや思いやりの心を伝えたり、患者の生活のリズムを整え、その人らしさを維持することにつながる重要な援助であることを学ぶ。
担当教員は臨床での看護師経験を活かし、看護技術を指導する。

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	「身なりを整える意義・目的」 ・身なりを整える意義・目的が理解できる。 ・患者に適した清潔援助が理解できる。	・身なりを整える目的を述べることができる。 ・患者に適した清潔援助の場面を述べるができる。 ・患者の全身状態・皮膚・粘膜の状態など身体状況をアセスメントをふまえたうえで、患者に適した清潔援助ができる。	野村 あすか
2	後期	「身なりを整える看護技術:寝衣交換」 ・模擬患者の寝衣交換ができる。	・患者の状態に合わせた寝衣を選択できる。 ・臥床中の患者の寝衣の正中を合わせ、しわなく、患者にとって安楽に着せることができる。 ・患者の表情を見ながら声掛けができる。 ・羞恥心、プライバシーに配慮し、肌の露出を最小限にしながら実施できる。	
3	後期			
4	後期	「身なりを整える看護技術:口腔ケアの手順、注意点」 ・口腔ケア実施時の注意点が理解できる。	・口腔ケア実施時の注意点を述べる事が出来る。	
5	後期	「身なりを整える看護技術:口腔ケアの実際」 ・模擬患者の口腔ケアが実施できる。	・意識障害の有る模擬患者が、誤嚥しないようにスポンジブラシ、吸引器を用いて口腔ケアを実施することができる。(校内実習) ・自力でうがい、歯ブラシができる患者の口腔ケアの介助ができる。(校内実習)	

6	後期	「身なりを整える看護技術:手浴、足浴、髭剃り」 ・模擬患者の手浴、足浴、髭剃りを実施できる。	・手浴・足浴が及ぼす影響を述べることができる。 ・電動髭剃りを用いて、模擬患者の髭を安全に剃ることが出来る。(校内実習)	
7	後期			
8	後期	「身なりを整える看護技術:全身清拭・:陰部洗浄」 ・模擬患者の全身清拭が実施できる。	・膿盆を用いて、臥床患者の陰部洗浄を実施することができる。(校内実習) ・おむつ上で、臥床患者の陰部洗浄を実施することができる。(校内実習)	
9	後期			
10	後期		・頭皮の汚れを落とし、適度な刺激で血行の促進ができる。(校内実習)	
11	後期	「身なりを整える看護技術:洗髪」 ・模擬患者の全身清拭が実施できる。	・患者に合った体位、方法(洗髪車・ケリーパッド・さっぱりさん)で洗髪が実施できる。(校内実習)	
12	後期	「身なりを整える看護技術:シャワー浴」 ・模擬患者のシャワー浴を実施することができる。	・臥床患者の簡易浴・シャワー浴を体験、実施できる。(校内実習) ・簡易浴・シャワーが患者に与える影響を述べることができる。(校内実習)	野村 あすか
13	後期			
14	後期	「身なりを整える技術のアセスメント」 ・患者に適した清潔援助が実施できる。	・患者のADLに合わせた清潔援助が選択できる。(校内実習)	
15	後期	授業総括 科目試験		
成績評価方法		本試験:60点、授業・演習態度:10点、課題:10点、看護技術試験:20点		
準備学習(授業時間外に必要な学修内容)		事前に演習に取り組む準備として、「演習・実習に役立つ基礎看護技術」を読み、「基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③」の動画を見て演習に臨む。		
留意事項		演習は、ユニフォームの着用とする。 課題の提出期限を超過した場合は、課題点は0点とする。		

学科・学年	看護科 1学年
科目名	臨床判断と看護技術Ⅴ 食べる
担当者	難波愛子
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 竹尾恵子 学研メディカル秀潤社 看護が見える vol.2 臨床看護技術 メディックメディア

授業概要と目的

対象の生命と生活を護るために必要な看護援助を論理的、実践的に学ぶとともに、基本的な技術を修得する。また、講義・演習での知識を統合し、事例を通して科学的根拠に基づいた看護を実践するための臨床判断能力を養い、対象の生活を捉えながらその人らしく健康的な生活が送れるよう、食べることを整えるための看護技術の基礎的知識・技術・態度を学ぶ。
担当教員は臨床での看護師経験を活かし、看護技術を指導する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	「食べるとは」 ・食べることの意義を理解する。	「食べることの意義・対象」 ・食べる意義を述べる ・食べれなくなる対象を述べる。	難波 愛子
2	通年	「食事・栄養のヘルスアセスメント」 ・食事・栄養状態の考察が出来る。	「アセスメントツールを活用する」 ・食事・栄養状態の観察を行い、推論する。	
3	通年	「食事の種類と援助方法」 ・経口摂取の食事援助を理解する。	「食形態・種類、看護を理解する」 ・食形態・種類を述べる。 ・経口摂取の援助を述べる。	
4	通年	「経口摂取不可能な対象の援助」 ・経鼻胃管挿入を習得する。	「経鼻胃管挿入」 ・根拠に基づいた経鼻胃管挿入の実施できる。	
5	通年	「経口摂取不可能な対象の援助」 ・経鼻胃管挿入を習得する。	「経鼻胃管挿入」 ・根拠に基づいた経鼻胃管挿入の実施できる。	
6	通年	「食欲不振の事例ヘルスアセスメント」 ・食欲不振の事例の推論が出来る。	シミュレーター使用し臨床判断 ・観察の視点、影響の予測が出来る。	
7	通年	「自己摂取不可能な事例の食事援助」 ・食事介助技術の習得。	「食事介助演習」 ・対象の視点に立った援助が出来る。	
8	通年	「自己摂取不可能な事例の食事援助」 ・食事介助技術の習得。	「食事介助演習」 ・対象の視点に立った援助が出来る。	

9	通年	「嚥下障害の事例のヘルスアセスメント」 ・嚥下障害の事例の推論が出来る。	「シミュレーター使用し臨床判断」 ・観察の視点、影響の予測が出来る。	難波 愛子
10	通年	「嚥下障害のある事例への食事援助」 ・食事介助技術の習得。	「食事介助演習」 ・対象の視点に立った援助が出来る。	
11	通年	「嚥下障害のある事例への食事援助」 ・食事介助技術の習得。	「食事介助演習」 ・対象の視点に立った援助が出来る。	
12	通年	「視覚障害の事例のヘルスアセスメント」 ・視覚障害の事例の推論が出来る。	「シミュレーター使用し臨床判断」 ・観察の視点、影響の予測が出来る。	
13	通年	「視覚障害のある事例への食事援助」 ・食事介助技術の習得。	「食事介助演習」 ・対象の視点に立った援助が出来る。	
14	通年	「視覚障害のある事例への食事援助」 ・食事介助技術の習得。	「食事介助演習」 ・対象の視点に立った援助が出来る。	
15	通年	授業総括 科目試験		
成績評価方法	筆記試験60%、課題40%(リフレクションペーパー15点、看護技術到達度チェック25点)の100%とする。			
準備学習など	1. 授業の前後は予・復習を行う。(1日20分の予・復習:15回で300分) 2. 授業後、疑問点を整理し解消する。(1日5分:15回で75分) 3. 事前に演習に取り組む準備と、事後のセルフトレーニング(240分) 4. 視聴覚教材による自己学習(60分) * 課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位修得するものとする。			
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	臨床判断と看護技術VI 排泄する
担当者	難波愛子
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学技術 II 医学書院 看護技術プラクティス 竹尾恵子 学研メディカル秀潤社 症状・徴候を看る力! 岡元和文編著 総合医学社 看護が見える vol.2 臨床看護技術 メディックメディア

授業概要と目的

排泄は人間の生命維持、成長、疾病の予防として重要なだけでなく、睡眠等と同様に日常生活を安全・安楽に営む基本である。排泄行動の維持は、人間としての尊厳を守り、QOLを維持するために不可欠な条件である。講義、演習での知識を統合し、科学的根拠に基づいた看護を実践する能力を高め、対象がその人らしく健康的な生活が送れるよう、看護実践に必要な排泄の基礎的看護技術を習得する。
担当教員は臨床での看護師経験を活かし、看護技術を指導する。

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	通年	「排泄とは」 ・排泄の意義とメカニズムを理解する。	・排泄の意義を述べることができる。 ・排泄のメカニズムを述べることができる。	難波 愛子
2	通年	「排泄のアセスメント」 ・排泄のアセスメントができる。	・正常な排泄のパターンを述べることができる。	
3	通年	「排泄のアセスメント:シミュレーション」 ・事例患者を通して排泄のアセスメントができる。	・事例患者を通して排泄のアセスメントができる。 ・ブリストルスケールを用いて便の性状を記録できる。	
4	通年	「自然排泄への援助」 ・自然排尿、排便の介助方法が理解できる。	・床上排泄(尿器・便器)の介助ができる。 ・おむつによる排泄、ポータブルトイレでの排泄援助方法を述べることができる。	
5	通年	「排便障害への援助:浣腸・摘便」 ・浣腸・摘便の援助が経験できる。	・浣腸・摘便の注意点を述べることができる。	
6	通年			
7	通年	「排泄障害」 ・排尿・排泄障害に必要な援助が理解できる。	・便秘・下痢時の看護を述べることができる。 ・便・尿失禁時の看護を述べることができる。 ・頻尿・排尿困難・尿閉時の看護を述べることができる。	
8	通年	「排便障害への援助:浣腸 技術試験」 ・浣腸の援助が実施できる。	・浣腸の援助が必要な場面を述べることができる。 ・浣腸実施時の注意点を述べることができる。 ・浣腸をチューブを正しい長さで安全に挿入できる。	
9	通年			
10	通年	「自然排泄への援助:シミュレーション」 ・自然排尿、排便の介助方法を実践できる。	・患者に合わせた排泄方法の選択ができる。	

11	通年	「排尿障害への援助:一時的導尿」 ・導尿の援助が実施できる。	・導尿の適応を述べることができる。 ・一時的導尿実施前・中・後の観察点が言える。 ・一時導尿実施時の注意点を述べるができる。	
12	通年			
13	通年	「排尿障害への援助:一時的導尿シミュレーション」 ・導尿の必要性を判断できる。	・模擬患者の状態から、一時的導尿の必要性を判断できる。	
14	通年	「排尿障害への援助:一時的導尿シミュレーション」 ・導尿実施前・中・後の観察ができる。	・女性模擬患者を用いて、導尿実施前・中・後の観察をし、安全に一時的導尿が実施できる。	
15	通年	授業総括 科目試験		
成績評価方法	本試験:60点 授業・演習態度:10点 課題:10点 看護技術試験:20点(浣腸・一時的導尿各10点)			
準備学習(授業時間外に必要な学修内容)	事前に演習に取り組む準備として、「演習・実習に役立つ基礎看護技術」を読み、「基礎看護技術Ⅱ基礎看護学③」の動画を見て演習に臨む。			
留意事項	演習は、ユニフォームの着用とする。 課題の提出期限を超過した場合は、課題点は0点とする。			

学科・学年	看護科 1学年
科目名	地域で暮らす人の理解
担当者	細野 亜里
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1) 地域療養を支えるケア 第7版

授業概要と目的

人はもともと地域に生まれ、そこで成長・発達していく過程で受けるしつけや教育によって自らの健康管理方法を学び、獲得していく。加えて家族や地域に属する人びととの助け合いを通して、安全に安心して暮らし、人生を全うする。そのため人の考え方や健康管理の方法は、暮らしてきた、また暮らしている地域のありようによって大きく影響を受ける。そこで学校が所在する愛知県名古屋市中村区という地域とそこに暮らす人びとの暮らしを知り、学校生活を送る自らもまた地域の一員として、ここ中村区での暮らしについて考えていく。そしてここでの学びを、地域・在宅看護論実習Ⅰの思いとその暮らしにつないでさらに深く追求していく。

担当教員は看護師としての知識・経験を活かし指導をする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)
1	前期	「笹島中学校区を知ろう」 ・笹島中学校区を理解する。	「なぜ、今、地域を知るのが」 ・地域・在宅看護論の科目の意味を説明できる。
2	前期		「笹島中学校区ってどんな地域か？」(フィールド調査) ・笹島中学校区の特徴を説明できる。
3	前期		
4	前期		「笹島中学校区での暮らしをイメージしよう」 ・笹島中学校区での暮らしをイメージしたことを他の人に伝えるように整理し、伝え方を探し、決定する。
5	前期	「笹島中学校区を他の人にも知ってもらおう」 ・他の人にも理解できるようにプレゼンテーションする。	「笹島中学校区での暮らしを調べてわかったこと、考えたこと、感じたこと、疑問はこれだ！」 ・調べてわかったこと、考えたこと、疑問を決められた条件の中で工夫して伝える準備ができる。
6	前期		
7	前期	「笹島中学校区で安心して暮らすためにはどうなっているのか？」 ・他の人に自分の調べたこと、考えたこと、疑問に思ったことを伝達する方法を身に着ける。	「自分の調べたこと、考えたこと、疑問に思ったこと」(発表会) ・自分の調べたこと、考えたこと、疑問に思ったことを他の人にも理解できるように伝えることができる。
8	前期		
成績評価方法		パフォーマンス評価	

準備学習など	<p>1. 授業の前後は予・復習を行う。(1日60分の予・復習:8回で450分)</p> <p>2. 1回目に提示するパフォーマンス課題に則って、第6回目までに作成し発表する。6回目までの発表資料作成に要する時間:900分)</p> <p>* 課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする。</p>
留意事項	<p>この科目は地域・在宅看護論を学ぶうえで基礎となる科目です。担当教員はこの科目の目標が達成できるように、個々の学生の興味関心を引き出したり、自分の意見が他の人に伝わるように関わります。自分が興味を持ったり、疑問に思ったことについて自主的に目標をたてて調べ、その結果を毎回振り返りながら次の戦略を立てます。また自分が得たものを他の人にも伝わるようにするための方法を工夫したりしていきましょう。色々なことに関心を持ち、目的をもって行動して振り返りをしながら次の戦略をたてて、自己の問いを育み姿勢で学習を深めていきましょう。</p>

学科・学年	看護科 1学年
科目名	地域で療養する人を支える I 自助、互助
担当者	細野 亜里
単位数(時間数)	1単位 (15時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論(1) 地域療養を支えるケア 第7版

授業概要と目的

この科目は、地域では人と人のつながりの中で暮らしていることと、人と人との関係性について学んでいく。そして看護の対象となる療養者とその家族の捉え方と支援のあり方について考えていく。
担当教員は看護師としての知識・経験を活かし指導をする。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)
1	後期	「私たちは健康の維持・回復のためにどのようにしているのか？」 ・健康の維持・回復のために私たちが行うことを理解する。	「自らの健康を守るために何に気をつけるか？」(GW)
2	後期		「病気になったらどうするのか？」(GW)
3	後期		「災害にはどのように備えるのか？」(GW) 「自らの健康を守るために何に気をつけるか？」(GW)
4	後期	「身近な人びととの助け合い」 ・地域の人びととの助け合いの方法を理解する。	「地域で生活する人はどのような思いを抱えているのか？」 ・地域で生活する人はどのような思いを抱えているかを述べる。
5	後期		「地域住民は自発的にどのような活動をしているのか？」 ・地域住民の自発的な活動について述べる。 「NPOは何をするのか？」 ・NPOについて述べる。
6	後期		「パワーバランスとは何か？」 ・助け合いにおけるパワーバランスの理想を述べる。 「家族看護とは何か？」 ・家族看護について述べる。
7	後期	「健康が破綻した時の維持・回復方法」	「健康破綻時における健康の維持・回復のためには何をどうするとよいか？」(発表会) ・健康の維持・回復のためにするとよいことを発表し、共有する。
8	後期	・健康破綻時の維持・回復のあり方を理解する。	

成績評価方法 パフォーマンス評価、レポート評価

準備学習など
1. 授業の前後は予・復習を行う。(1日60分の予・復習:8回で450分)
2. 1回目に提示するパフォーマンス課題に則って、第6回目までに作成し発表する。6回目までの発表資料作成に要する時間:900分)
* 課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする。

留意事項
担当教員は日常生活行動を進行する身体の形態と機能について、人体構造機能学と照らし合わせ、基本的な考え方や繋げて考える方法を指導します。この科目は看護を学ぶうえでの基礎となる科目です。予習、復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学習が必要です。日頃から保健・医療や福祉に関する新聞記事やニュースなどの報道に関心を持つなど、色々なことに関心を持ち、多くの体験と学習をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。

学科・学年	看護科 1学年
科目名	社会に生きる成人の健康を考える
担当者	佐藤直美
単位数(時間数)	1単位 15時間
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]成人看護学総論

<p>授業概要と目的</p> <p>成人のライフサイクルの視点から対象の特徴及び健康問題を理解し、成人看護の役割を理解する。また成人の健康の保持・増進や疾病予防のための看護が理解できる。また、成人への看護の役割について学ぶ。この学びは、各健康の回復段階の学びの前提となる基本的な成人看護の理論を通し、心理的变化から配慮について学ぶ。 担当教員は看護師としての臨床経験、専門知識を活かし指導する。</p>

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	成人看護の概念と構成について理解する	成人看護の概念と構成について説明する	佐藤直美
2	後期	ヘルスプロモーションを必要とする対象について理解する	ヘルスプロモーションを必要とする対象について説明する	
3	後期	成人の発達段階と発達課題(エリクソン・ハビガースト・レビンソンの発達段階)について理解する	成人の発達段階と発達課題(エリクソン・ハビガースト・レビンソンの発達段階)について討議する	
4	後期	青年期・壮年期・向老期の特徴について理解する	青年期・壮年期・向老期の特徴について討議する	
5	後期	成人期の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルの特徴について理解する	成人期の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルの特徴について討議する	
6	後期	成人看護の基礎となる理論(ニード論・ケアリング・ストレス理論・生体侵襲理論)について理解する	成人看護の基礎となる理論(ニード論・ケアリング・ストレス理論・生体侵襲理論)について討議する	
7	後期	成人看護の基礎となる理論(セルフケア論・自己効力理論/適応理論・アドヒアランス)について理解する	成人看護の基礎となる理論(セルフケア論・自己効力理論/適応理論・アドヒアランス)について討議する	
8	後期	1)科目試験(45分)		
成績評価方法	テスト80% レポートおよび課題20%			
準備学習など	自己を取り巻く人々に関心を持ち、社会の動向の情報を意識しておくことが必要です			
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	社会に生きる成人の健康を支える 病気の予防
担当者	佐藤直美
単位数(時間数)	1単位 15時間
学習方法	講義
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]成人看護学総論

<p>授業概要と目的</p> <p>成人のセルフマネジメント能力を活かし、生活習慣病予防を社会で役割を果たしながら生活する対象の特徴及び健康問題への対処行動までを理解する。また成人の健康の保持・増進や疾病予防のための社会資源の活用や看護師の役割が理解できる。 担当教員は看護師としての臨床経験、専門知識を活かし指導する。</p>
--

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	生活習慣に関連する健康課題を理解する	生活習慣に関連する健康課題を討議する	佐藤 直美
2	後期	職業に関連する健康課題について理解する	職業に関連する健康課題について説明する	
3	後期	ストレスに関連する健康課題について理解する	ストレスに関連する健康課題について討議する	
4	後期	セルフケアについて理解する	セルフケアについて討議する	
5	後期	セルフマネジメントについて理解する	セルフマネジメントについて討議する	
6	後期	成人期における看護者の役割について理解する	成人期における看護者の役割について討議する	
7	後期	成人看護実践におけるチーム医療について理解する	成人看護実践におけるチーム医療について討議する	
8	後期	1)科目試験(45分)		
成績評価方法	テスト80% レポートおよび課題20%			
準備学習など	社会の動向を意識し、基礎看護学でた知識を確認しておくことが重要です			
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	病気と共に生きる成人を支えるⅠ 慢性期・回復期
担当者	岩田 幸代・奥地 伸城・藤山 美由紀
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学① 成人看護学総論 医学書院 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑥ 内分泌・代謝 医学書院 系統別看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学⑦ 脳・神経 医学書院 系統別看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院

<p>慢性期看護では、慢性疾患をもつ成人の特性を理解し、疾患との共存の過程を支える看護を実践するための基礎知識を学ぶ。また、主な慢性疾患の看護の方法と実際を学び、慢性疾患を抱える成人が生涯にわたって、病気と生活していくために必要な患者教育の基本的な考え方とその技術を学ぶ。</p> <p>回復期間後では、リハビリテーションを受ける対象の障害の構造を国際生活機能分類(ICF)に基づいて理解し、その人の健康に向かう過程を支える看護を実践するための基礎知識を学ぶ。また、主なリハビリテーション看護の方法と実際の基本的な考え方とその技術を学ぶ。</p> <p>担当教員は臨床での看護師経験を活かし、慢性期及び回復期の看護を指導する。</p>

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	・慢性期の捉え方と看護を理解する。	・慢性期の看護とは何かを述べる。 ・慢性疾患の種類・疾患と特徴を述べる。 ・病期・障害を受け入れるプロセスを述べる。 ・慢性疾患を有する患者を支える家族の特徴を述べる。	岩田 幸代
2	後期	・セルフケアマネジメントの支援を理解する。 ・セルフケアが必要な疾患とその特徴を理解する。	・セルフケアとセルフケアマネジメントを説明できる。 ・2型糖尿病の事例に基づいて、考察する。 (糖尿病の症状と合併症、糖尿病コントロールと教育、糖尿病看護の考え方、観察とアセスメント、評価の考え方、治療の継続のための関わり)	
3	後期	・セルフケアマネジメントの支援を理解する。 ・慢性疾患を有する対象への教育活動の実際を理解する。	・2型糖尿病の患者への教育活動とその必要性を述べる。 ・2型糖尿病の事例に基づいて、リーフレット・パンフレット作成する。	
4	後期	・セルフケアマネジメントの支援を理解する。 ・慢性疾患を有する対象への教育活動の実際を理解する。	・リーフレットにもとづいて2型糖尿病の患者への教育活動を実践する。(校内実習)	
5	後期	・回復期の捉え方と看護を理解する。	・回復期の看護とは何かを述べる。 ・国際生活機能分類(ICF)と生活機能障害について述べる。 ・回復期リハビリテーションの過程にある対象の心理と社会的反応を述べる。 ・看護の役割・専門職とチーム医療を述べる。	
6	後期	・代表的なリハビリテーションを理解する。	・回復過程別リハビリテーションの目的と内容を述べる。(日常生活機能訓練、心臓リハビリテーション、呼吸機能訓練)	
7	後期	・回復過程別リハビリテーションを理解する。	・運動機能のヘルスアセスメントについて述べる。 ・徒手筋力テストを実践する。	

8	後期	・リハビリテーション看護を理解する。 ・リハビリテーションが必要な疾患とその特徴を理解する。	・脳卒中看護の実際を述べる。(脳出血の症状と合併症、脳出血の看護の考え方) ・リハビリテーションチームにおける看護師の役割と多職種連携について述べる。	藤山 美由紀
9	後期	・リハビリテーション看護を理解する。 ・リハビリテーション看護の実際を理解する。	・脳卒中看護の実際を述べる。(回復過程に応じたリハビリテーション)	
10	後期	・リハビリテーション看護を理解する。 ・リハビリテーション看護の実際を理解する。	・事例に基づいてリハビリテーション看護を述べる。(脳出血の患者へのリハビリテーション)	
11	後期	・リハビリテーション看護を理解する。 ・リハビリテーション看護の実際を理解する。	・事例に基づいてリハビリテーション看護を実践する。(校内実習)(脳卒中患者へのリハビリテーション)	
12	後期	・リハビリテーション看護を理解する。 ・リハビリテーション看護の実際を理解する。	・事例に基づいてリハビリテーション看護を述べる。(日常生活訓練と評価)	
13	後期	・リハビリテーション看護を理解する。 ・リハビリテーション看護の実際を理解する。	・事例に基づいてリハビリテーション看護を実践する。(校内実習)(日常生活訓練と評価)	
14	後期	・リハビリテーション看護を理解する。 ・リハビリテーションを継続するための関わりを理解する。	・リハビリテーションが必要な成人に対し、リハビリテーションを継続するための関わり方を述べる。	
15	後期	授業総括・科目試験		岩田 幸代
成績評価方法		(岩田)筆記試験50点、レポート課題15点 (藤山)筆記試験35点		
準備学習など		1. 授業の前後は予・復習を行う(1日45分の予・復習:15回で675分) *課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする		
留意事項		この科目は、慢性期及び回復期の看護を学ぶ上で必要な知識となる科目です。予習・復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学習が必要です。日頃から保健・医療・福祉に関する新聞記事やニュースなどの報道に関心を持つなど、色々なことに関心を持ち、多くの体験と学習をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。		

学科・学年	看護科 1学年
科目名	高齢者が輝く生活
担当者	春日井 美知代
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院

授業概要と目的

老年期にある対象を理解し、高齢者一人一人が輝いて生活が送れるよう、高齢者を取り巻く社会の動向と社会保障を理解し、高齢者看護の役割を学ぶ。
担当教員は看護師としての臨床経験、専門知識を活かし指導する。

回 (コマ)		「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	1. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴と発達課題 (1) 老年看護の目的・特徴を理解する。 (2) レポートにより自己の老年観を認識する。	1) 老年看護の目的・特徴 ① 老年看護の変遷を述べる。 ② 老年看護の目的・特徴を述べる。 ③ 老年看護を学ぶ必要性について述べる。 ④ 「80歳の私、ライフストーリー」について自己の老年観を表現する。	春日井 美知代
2	後期	2. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴と発達課題 (1) 加齢に伴う変化の特徴を理解する。	2) 高齢者の身体的変化 ① 加齢に伴う変化の特徴を列挙できる。 ② 高齢者疑似体験により、高齢者の身体的変化について説明する。(演習)	
3	後期	3. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴と発達課題 (1) 加齢に伴う変化の特徴を理解する。	3) 高齢者の心理的・社会的変化 ① 高齢者の心理的特徴である人格・記憶・情緒の変化について述べる。 ② 高齢者の社会的変化である役割の変化について述べる。	
4	後期	4. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴と発達課題 (1) 老年期の発達課題を理解する。	4) 老年期の発達課題 ① 老年期の発達課題について説明する。	
5	後期	1. 高齢者を取り巻く社会と社会保障 (1) 高齢者をとりまく社会問題を知り、高齢者の置かれている環境を知る。	1) 高齢社会の統計データの分析 ① 高齢社会への国際的動向を述べる ② 我が国の高齢社会の現状について統計データから説明する。 ③ 変化する高齢社会と家族の特徴について説明する。	
6	後期	2. 高齢者を取り巻く社会と社会保障 (1) 高齢者を支える社会制度とその変遷を知る。	1) 保健・医療・福祉の動向 ① 老人福祉法、老人保健法について説明する。	
7	後期	3. 高齢者を取り巻く社会と社会保障 (1) 介護保険制度とそのサービスについて理解する。	2) 保健・医療・福祉の動向 ① 介護保険法の理念と特徴を述べる。 ② 介護保険と医療の関係を説明する。 ③ サービスと活用方法を説明する。	

8	後期	4. 高齢者を取り巻く社会と社会保障 (1) 高齢者を取りまく社会状況を知る。	1) 高齢者を取りまく社会状況 ① 高齢化が及ぼす経済社会への影響について述べる。 ② 職業生活への影響について述べる。	春日井 美知代	
9	後期	5. 高齢者を取り巻く社会と社会保障 (1) 高齢社会の権利擁護の概念について理解する。	1) 高齢社会の権利擁護の概念 ① 高齢者の虐待について意見交換できる。 ② 成年後見制度について説明する。		
10	後期	6. 高齢者を取り巻く社会と社会保障 (1) 高齢者におけるエンドオブライフケアについて理解する。	1) エンドオブライフケア ① 高齢者のエンドオブライフケアについて述べる。 ② 意思決定の支援について説明する。		
11	後期	7. 高齢者を取り巻く社会と社会保障 (1) 在宅医療とエンドオブライフケアを理解する。	2) エンドオブライフケア ① DVDの視聴から、在宅医療とエンドオブライフケアについて自己の考えを述べる。		
12	後期	8. 高齢者を取り巻く社会と社会保障 (1) 生活・療養の場における看護が理解できる。を知る。	1) 高齢者の生活を支える介護家族の現状 ① 介護家族の生活と健康について述べる。 ② 介護家族への看護について説明する。 ③ 家族介護の課題について述べる。		
13	後期	1. 輝く高齢者 (1) 老年看護の役割と特徴及び理念・概念の活用を理解する。	1) 高齢者看護の役割と特徴及び理念・概念の活用 ① 老年看護の成り立ち・理論・概念について説明する。 ② 超高齢化社会の現状について説明する。		
14	後期	2. 輝く高齢者 (1) 高齢者を取りまくさまざまな職種の概要と高齢者の生活を支える取り組みを理解する。	1) 超高齢社会の現状と取り組み ① 医療・福祉職の多様化について述べる。 ② サービス構成のしくみを説明する。 ③ 老年看護の責務について述べる。		
15	後期	授業総括・科目試験			
成績評価方法		筆記試験80点、レポート課題20点の合計100点の評価とする。			
準備学習など		担当教員は臨床での看護師経験を活かし、老年看護を教授していきます。この科目は、老年看護を学ぶ上で必要な知識となる科目です。予習・復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学習が必要です。日頃から保健・医療・福祉に関する新聞記事やニュースなどの報道に関心を持つなど、色々なことに関心を持ち、多くの体験と学習をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。			
留意事項		1. 授業の前後は予・復習を行う(1日45分の予・復習:15回で675分) * 課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする。			

学科・学年	看護科 1学年
科目名	女性と家族を支える
担当者	野田 貴代
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学① 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学② 母性看護学各論 医学書院

授業概要と目的

女性の生涯を通じた母性の健康と次世代の健全育成を支援するため、母性看護の基盤となる概念を学ぶ。また母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解する。また母性看護と生命倫理について、女性と家族の健康支援に関する看護の役割を考える。女性のライフサイクルにおける形態・機能変化について理解し、女性の一生を通じた健康の維持・増進・疾病予防を目的とした母性看護について学ぶ。
担当教員は助産師としての臨床経験、専門知識を活かし指導する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	「母性看護の考え方」 ・母性の概念を理解し、母性看護の対象と役割を知る。	・母性の定義を述べることができる。 ・母性の概念に基づき、母性看護の対象を述べることができる。	野田 貴代
2	後期	「女性のライフサイクルにおける形態・機能変化」 ・女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化と、母性の発達を理解する。	・女性生殖器の形態・機能を述べることができる。 ・生命の始まりと妊娠週数について説明できる。	
3	後期			
4	後期	「母性看護と生命倫理」 ・生命倫理の問題は母性看護学において避けては通れない問題であることを理解し、重要かつ複雑な問題であることを認識する。	・母性看護学における生命倫理の問題の複雑さと重要性を感じることができる。 ・母性看護学における生命倫理の問題について自分の意見を述べることができる。	
5	後期			
6	後期	「母子保健統計と社会資源」 ・母性看護にかかわる統計指標と母性看護にかかわる法律の観点から、母性看護の現状を理解する。	・母子保健の水準を社会情勢と結びつけて説明できる。 ・母性看護に関わる法律名と内容を説明できる。	
7	後期			
8	後期	「女性のライフサイクルと看護(1)女性のライフサイクルとは」 ・ライフサイクルにおける女性の健康と発達課題について学び、看護の必要性を認識する。	・女性のライフサイクル各期の分類を説明できる。 ・リプロダクティブヘルス・ライツと女性のライフサイクルにおける看護の重要性を結び付けて説明できる。 ・女性のライフサイクルにおける看護の必要性に気づくことができる。	
9	後期	「女性のライフサイクルと看護(2)思春期の特徴と健康課題」 ・思春期の身体的特徴と心理・社会的特徴を理解し、看護について学ぶ。	・思春期の身体的特徴(第2次性徴、月経周期)を説明できる。 ・思春期のアイデンティティについて説明できる。	

10	後期	「女性のライフサイクルと看護(3)成熟期の特徴と健康課題」 ・成熟期の身体的特徴と心理・社会的特徴を理解し、看護について学ぶ。	・成熟期の健康問題(月経随伴症状、子宮筋腫、子宮内膜症)を説明できる。 ・不妊症、ドメスティック・バイオレンスの問題を指摘できる。	野田 貴代
11	後期	「女性のライフサイクルと看護(4)更年期の特徴と健康課題」 ・更年期の身体的特徴と心理・社会的特徴を理解し、看護について学ぶ。	・更年期の特徴(エストロゲン低下に伴う変化)を説明できる。 ・尿失禁、骨粗しょう症、更年期女性のうつ病について説明できる。	
12	後期	「女性のライフサイクルにおける社会的問題」 ・グループワークを行い、他者の意見を聞き、議論を展開することで、多角的なもの見方、より深く問題を掘り下げて考えることの重要性を実感し、女性のライフサイクルにおける諸問題への関心を高める。	・女性のライフサイクルにおける社会的問題について記述することができる。 ・グループ討議において自分の意見を述べる ことができる。 ・グループワークで他者の意見を聴くことができる。 ・グループの意見をまとめ発表することができる。 ・他のグループの発表を聴き、意見を述べる ことができる。	
13	後期			
14	後期			
15	後期	授業総括 科目試験		
成績評価方法		筆記試験80%、レポート課題10%、グループワーク10%		
準備学習など		性と生にかかわる問題について日頃から関心をもって情報を得るようにして下さい。		
留意事項				

学科・学年	看護科 1学年
科目名	こころを支える
担当者	清水 寿郎
単位数(時間数)	1単位 (30時間)
学習方法	講義・演習
教科書・参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院 新版 精神看護学 - 一般社団法人日本精神科看護協会監修 - 中央法規出版

授業概要と目的

担当教員は、臨床での看護師経験を活かし指導をする。精神看護への第一歩となる精神看護の基本的な考え方や看護倫理を指導する。

健康な精神生活を支えるための看護の意義と役割を学ぶ。精神看護の基本的概念や歴史の変遷を学び、精神に障がいをもつということはどういうことか、障がいの定義や精神障害をもつ人々の歴史的にみた処遇の変遷、精神障害を発症するということを体験的に学び理解を深める。また、ライフサイクルと精神看護の課題について理解を深めるとともに、目に見えない対象である「こころ」についても体験や意見交換を通して学習する。

回 (コマ)	授業日	「授業項目」 一般目標(GIO)	「授業内容」 到達目標(SBOs)	担当者
1	後期	「精神医療・看護の目標と役割と歴史の変遷」 ・精神看護の目標と役割を理解できる。	「精神看護の目標と役割」 「精神医療の歴史の変遷」 ・歴史や8つの役割、定義を述べる。(①) ・精神看護を行う理想の自分の姿を①を用いて述べる。	清水 寿郎
2	後期	「精神看護の基礎的な考え方」 ・精神看護の考え方を理解できる。	「精神の健康」 「精神障害の捉え方」 「ストレスと健康の危機」 「防衛機制と心的外傷」 「リカバリーを支える力」 ・こころの健康や仕組み、ストレス、防衛機制、リカバリーの考え方を述べる。 ・こころの仕組みを用いて患者対応の根拠として述べられる。	
3	後期	「こころと法律」 ・精神看護に関する法律を理解できる。	「精神保健関連法規(精神保健福祉法、障害者総合支援法、心神喪失者等医療観察法、児童虐待防止法・DV防止法、個人情報保護法)」 ・それぞれの法律の特徴や制度を述べる。 ・なぜ、こういった法律が必要なのかを述べるができる。	
4	後期	「ライフサイクルと精神看護」 ・周産期から思春期のライフサイクルにおける精神の健康課題が理解できる。	「ライフサイクルと精神看護の課題」 ・周産期から思春期に多く見られるこころの問題を3つ、答えることができる。 ・発達段階をふまえて、相手の立場や考え方に配慮する必要性を述べることができる。	
5	後期	「ライフサイクルと精神看護」 ・青年期から老年期のライフサイクルにおける精神の健康課題が理解できる。	「ライフサイクルと精神看護の課題」 ・青年期から老年期に多く見られるこころの問題を3つ述べる ことができる。 ・発達段階をふまえて、相手の立場や考え方に配慮する必要性を述べることができる。	
6	後期	「精神科で出会う人々(1)こころを病むことと生きること」 ・こころを病むことでの生きづらさに対する自己の考えを表現できる。	「「病いの経験」の理解へのつながり 映像資料より考える1」 ・映像の中から、統合失調症が本人にどのように作用しているか述べる。 ・映像から、統合失調症を持つ方の立場に立って苦悩を考え、述べるができる。	

7	後期	「精神科で出会う人々(2)こころを病むことと生きること」 ・こころを病むことでの生きづらさに対する自己の考えを表現できる。	「「病いの経験」の理解へのつながり 映像資料より考える2」 ・前回に続き、映像の中から統合失調症が本人にどのように作用しているか述べる。 ・本人に作用している病気の状態を生活視点をふまえて述べる。	清水 寿郎	
8	後期	「精神科で出会う人々(3)こころを病むことと生きること」 ・統合失調症の患者のイメージを表現できる。	「統合失調症の患者への理解」(GW) ・統合失調症の特徴を述べる。 ・グループワークから、統合失調症が患者にもたらす生活への影響について、自己の考えを述べる。		
9	後期	「精神科で出会う人々(4)こころを病むことと生きること」 ・気分障害の患者のイメージを表現できる。	「気分障害などの患者への理解」(GW) ・気分障害などの疾患の特徴を述べる。 ・グループワークから、気分障害などが患者にもたらす生活への影響について、自己の考えを述べる。		
10	後期	「精神科で出会う人々(5)こころを病むことと生きること」 ・人格障害の患者のイメージを表現できる。	「人格障害などの患者への理解」(GW) ・人格障害などの疾患の特徴を述べる。 ・グループワークから、人格障害などが患者にもたらす生活への影響について、自己の考えを述べる。		
11	後期	「患者の生活環境を知る(1)こころを病む方々の入院環境での生活を知る」 ・精神を病む人の入院環境の生活を理解できる。	「こころを病む方々の入院生活の環境を知る」 ・精神保健福祉法の入院形態や特徴を述べる。 ・精神科の入院環境が患者にもたらす影響を述べる。 ・入院環境での時期に応じた一般的な対応を考え、述べることができる。		
12	後期	「患者の生活環境を知る(2)こころを病む方々の地域での生活を知る」 ・こころを病む人の地域での生活を理解できる。	「こころを病む方々の地域での生活を知る」 ・こころを病む人が地域で暮らすために必要な注意点を述べる。 ・精神科の通院環境を述べる。 ・地域で暮らすための病期に応じた対応方法を考えることができる。		
13	後期	「こころの基本的人権と倫理」 ・精神科の基本的人権と倫理から現代社会における精神保健活動の課題を知る。	「こころを病む人の人権、倫理を担う」 ・精神科の法律運用の特徴を述べる。 ・人権と倫理をふまえ、実際の精神保健活動の特徴を述べることができる。		
14	後期	「こころの基本的人権と倫理」 ・地域包括ケアシステムと精神障害者の暮らしと実情を知る。	「こころを病む人を支える、実際に行われている地域での取り組み」 ・精神科と地域包括ケアシステムの特徴を述べる。 ・アウトリーチ推進事業の特徴を述べる。 ・実際の精神保健活動の特徴を述べることができる。		
15	後期	1)授業総括 2)科目試験			
成績評価方法		筆記試験80点、課題用紙の提出による20点の合計100点の評価とする。			
準備学習など		1. 授業の前後は予・復習を行う。(1日45分の予・復習:15回で675分) 授業前は 指定の教科書、参考書を事前に読み、内容を整理しておく。 授業後は講義で学んだ部分について教科書の該当する部分を参考に、ノートや配布資料を整理しておく。 * 課題学習と授業時間を合わせて45時間(1時間は45分の計算とする)の学習により単位を修得するものとする。			
留意事項		この科目は精神看護を学ぶうえでの基礎となる科目です。予習、復習を自主的に行い、積極的に学ぶ姿勢で受講してください。また、看護は広い学習が必要です。日頃から保健・医療や福祉に関する新聞記事やニュースなどの報道に関心を持つなど、色々なことに関心を持ち、多くの体験と学習をして視野を広げ、自己の問いを育む姿勢で学習を深めていきましょう。			

学科・年次	看護科 1学年
科目名	基礎看護学実習 I 看護師の役割と機能を知る
担当者	実習指導教員
担当者	45時間
授業形態	臨地実習施設
教科書・参考書	看護学概論・基礎看護学技術 I・II 看護が見える③

科目のねらい		
<p>学生にとって最初の臨地実習であり、実際の現場でこれまでに学習してきた内容を5感で感じながら学ぶ機会となる。看護師が行う療養患者の生活を整える援助を見学したり、患者と直接コミュニケーションをとったりするリアルな場面をとおして看護師の役割と機能を学び、看護師への志を高める。また、看護師に同行し援助の一部を実施させてもらう中で、患者に対する看護実践への責任と倫理的配慮を学ぶ。さらに学生自身で観察や環境を整える技術を実際に提供することにより看護実践の楽しさや奥深さを体験し、「看護とは何か」を考えられるように学ぶ。</p>		
<p>学生にとって最初の臨地実習であり、実際の現場でこれまでに学習してきた内容を6感で感じながら学ぶ機会となる。看護師が行う療養患者の生活を整える援助を見学したり、患者と直接コミュニケーションをとったりするリアルな場面をとおして看護師の役割と機能を学び、看護師への志を高める。また、看護師に同行し援助の一部を実施させてもらう中で、患者に対する看護実践への責任と倫理的配慮を学ぶ。さらに学生自身で観察や環境を整える技術を実際に提供することにより看護実践の楽しさや奥深さを体験し、「看護とは何か」を考えられるように学ぶ。</p>		
科目目標		
<p>基礎看護学実習 I-1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の構造・機能を理解する。 2. 病院における看護師の役割と機能を理解する。 3. 看護者としての適切な行動をとる。 <p>基礎看護学実習 I-2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の入院生活の状況を理解する。 2. 患者の状態に応じた環境を調整する。 3. 患者に安全な方法でバイタルサイン測定を実施する。 4. 看護者としての、援助関係の基盤となる行動を身につける。 		
授業計画		
時間	単元名・授業内容	実習場所

15時間	<p>基礎看護学実習 I-1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院・病棟オリエンテーションを受け、構造や設備と機能について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 事前に学習している内容と比較し、理解した内容を記述する。 2. 病院における看護師の役割と機能を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 病院・病棟の看護師の役割と機能については、実習初日に説明を受け、事前に学習している内容と比較し、理解した内容を記述する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護の機能 <ol style="list-style-type: none"> ① 看護体制・看護方式 ② 看護継続のための連携 2) 実習中、委員会活動・他職種連携の場面を見学する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護師の役割 <ol style="list-style-type: none"> ① 各種委員会活動 ② 多職種連携 3) 看護師と共に行動し、その際の看護実践を見学・一部実施をとおり、理解した看護師の役割を記述する。 4) 看護師がどのような目的で看護実践を行っているかを確認する。 3. 看護者としての適切な行動をする。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 礼儀と節度をわきまえ、患者と関わる際は、相手を尊重した態度を意識する。 2) 同行した看護師及び自己の身だしなみや態度から、看護師の礼儀と節度をわきまえた態度についてカンファレンスで自己の意見を述べる。 3) 話を聞く際は、最後まで遮らずに聞くようにする。 	臨地実習施設
30時間	<p>基礎看護学実習 I-2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の入院生活の状況を理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護師と行動を共にし、援助の見学・参加・実施を通して、患者の入院状況を理解する。 2) 入院を余儀なくされている患者の思いを聞き、看護者としてどのように対応していく必要があるか、自己の意見をカンファレンスで述べる。 2. 患者の状態に応じた環境を調整する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 患者1名を選定し、環境調整を実施する。 2) 療養環境の観察を行い、記録用紙に記述する。(計測できれば実施する) <ol style="list-style-type: none"> (1) 対象の生活の場である病床とその周辺環境の観察 3) 療養環境の観察から、安全・安楽・自立清潔さを考慮して、患者の希望に合わせて実施する。 <ol style="list-style-type: none"> (1) シーツ交換 (2) バイタルサイン測定 4) 環境調整の前後で患者の反応を確かめ、援助が適切であったかを振り返り、善点を記述する。 5) 療養環境の調整の実践から、看護理論家と環境についての事前学習をもとに 	臨地実習施設

	<p>3. 看護者としての、援助関係の基盤となる行動を身につける。</p> <p>1) 事前に看護倫理綱領の授業資料および解釈文について読み、理解を進める。</p> <p>2) 看護倫理綱領の行動指針(療養者の権利擁護・守秘義務・説明義務・自己決定を尊重する)について、意識して行動する。</p> <p>3) 看護に関心を示し、自己の課題に気づく。</p> <p>(1) 毎日のカンファレンステーマに沿って、自己の意見を述べる。</p> <p>(2) 自己の行動に責任を持ち、積極的に実習へ参加する姿勢を持つ。</p> <p>(3) グループメンバーとしての協力的な姿勢を持つ。</p> <p>(4) 日々の行動の振り返りをとおして、自己の課題を見出し、実習での学びに関連して自己学習する。</p> <p>(5) 指導者・教員・学生間での報告・連絡・相談をする姿勢を身に付ける。</p>	
評価方法	ルーブリック評価	
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと	
留意事項	実習のオリエンテーションは欠席しないよう体調を整えること。	

学科・年次	看護科 1学年
科目名	地域・在宅看護論実習 I 人々の思いとその暮らし
担当者	実習指導教員
担当者	45時間
授業形態	地域における実習
教科書・参考書	地域・在宅看護論実習の授業内で使用した教科書・資料・参考書

科目のねらい
<p>地域で暮らす人の理解で学んだことを受け、実際に中村区の地域を探索し、中村区で暮らしている人々の思いや暮らしぶり、また地域での取り組みに触れる。そして、自らも学校生活を送る者、地域の一員として地域の強みや課題、自分にできることを見出す。こうした取り組みを通じて、看護の対象を地域で暮らす人として捉えること、またこの後に学ぶ地域・在宅看護論の内容に、イメージを持ちながら取り組んでいけることをねらいとする。なおこの実習は看護師として指導経験のあるものが指導する。</p>

科目目標

授業計画	
時間	単元名・授業内容
45時間	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「地域で暮らす人の理解」の授業で発表した内容を、もう一度振り返る。 2. 学区長から、六反学区の居住や住人についての概略の説明を受ける。 3. 1.2から自分が調べたいこと、追求したいこと、疑問に思ったことを選択する。 4. グループ内で自分が調べたいこと、追求したいこと、疑問に思ったことの内容を共有する。 5. その方法を検討し、具体的な計画を立てる。 6. 計画を実践する。 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の引率により地域を探索する。それにより生まれ育った地域で暮らしたいと願う人々の思いを知る。 ・学区内の地域の移り変わりや人々の生活環境や暮らしぶりについて、学区長、民生委員、防災担当者の説明から知る。 7. 「安心して、安全に暮らすために、中村区の住民は何をどのように取り組んでいるのか」「どのような課題が残されているのか」「地域の一員として、自分ができることは何か」について発表する。 8. 発表を受けて、「安心して、安全に暮らすために、中村区の住民は何をどのように取り組んでいるのか」「どのような課題が残されているのか」「地域の一員として、自分ができることは何か」について報告書を作成する。
評価方法	ルーブリック評価
学習準備など	事前のオリエンテーション・実習要綱を確認し、実習に臨むこと
留意事項	実習のオリエンテーションは欠席しないよう体調を整えること。